

特別
~5
6700
2



6700
2



山茶花
百子堂

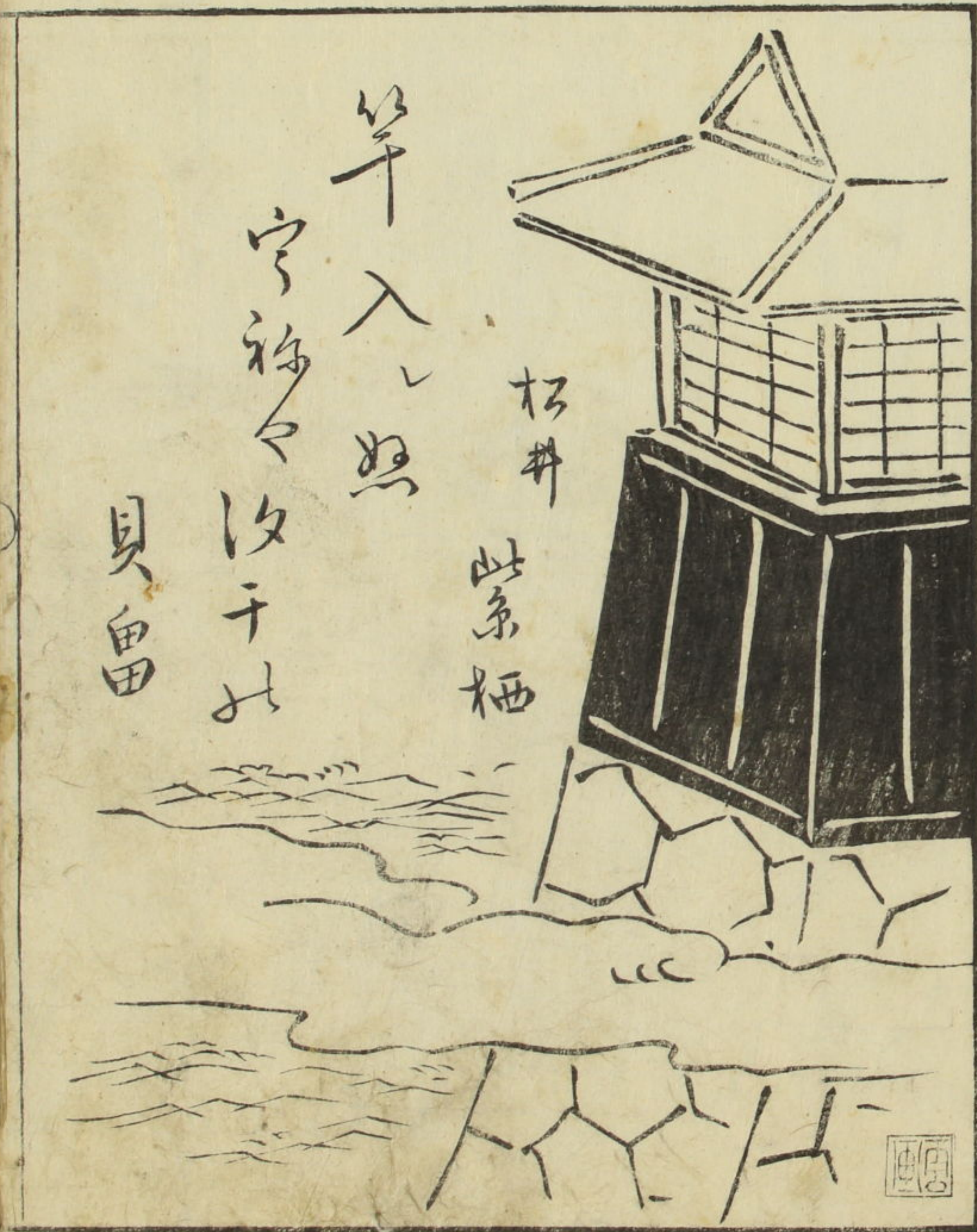
時雨の閑

夕

恒招
うる



△
口
一



竿入ノ燈

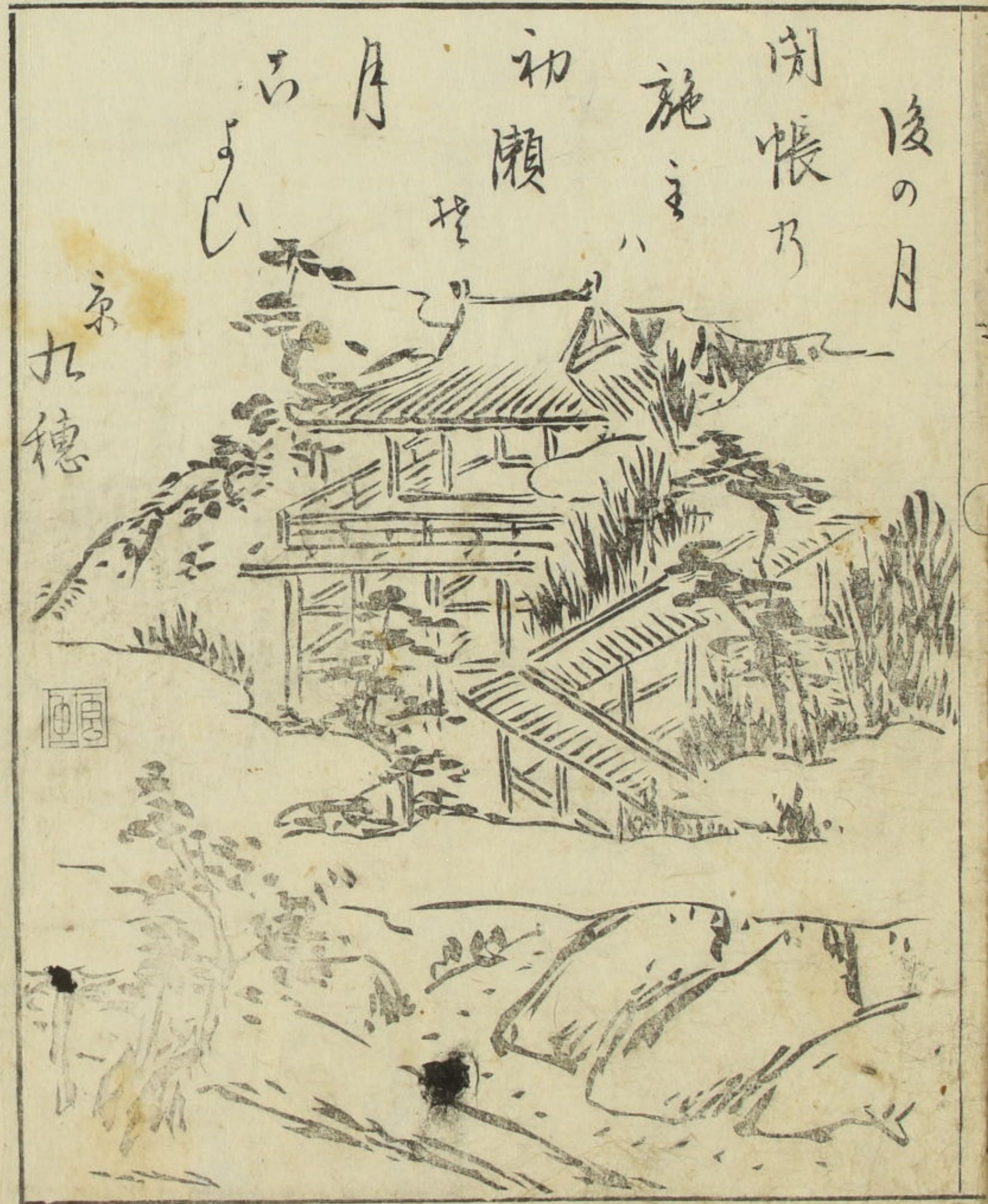
宇稱々
汝干此

貝田

松井

此系栖

▲口二



後の月

閑帳乃

施主

初瀬

月

よ心

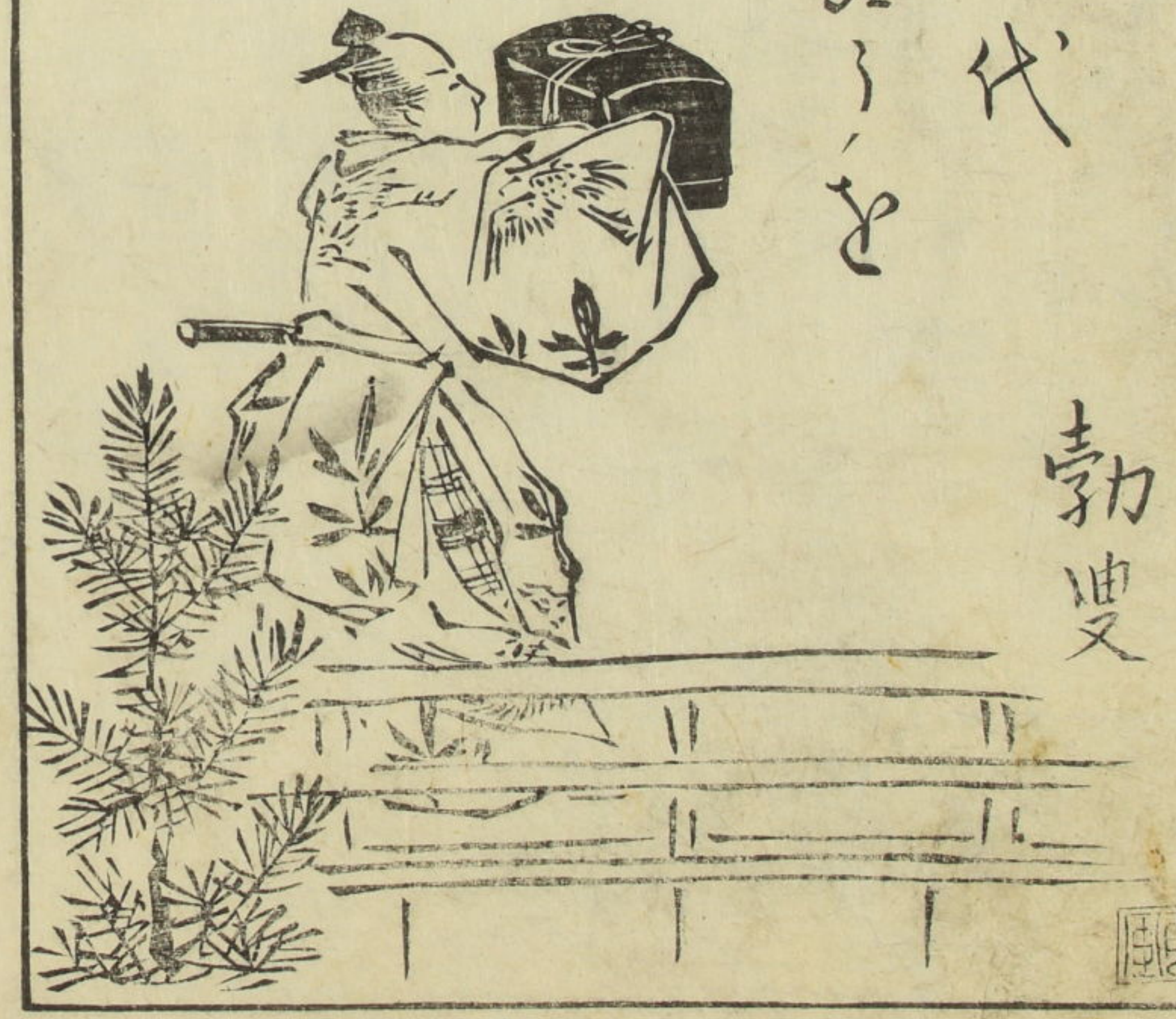
京
九穂



東山時代

志々々々々

津々



勃叟



▲口三

箕面山詠和集

周禾

濡了照末持葉形

漢州田







後中

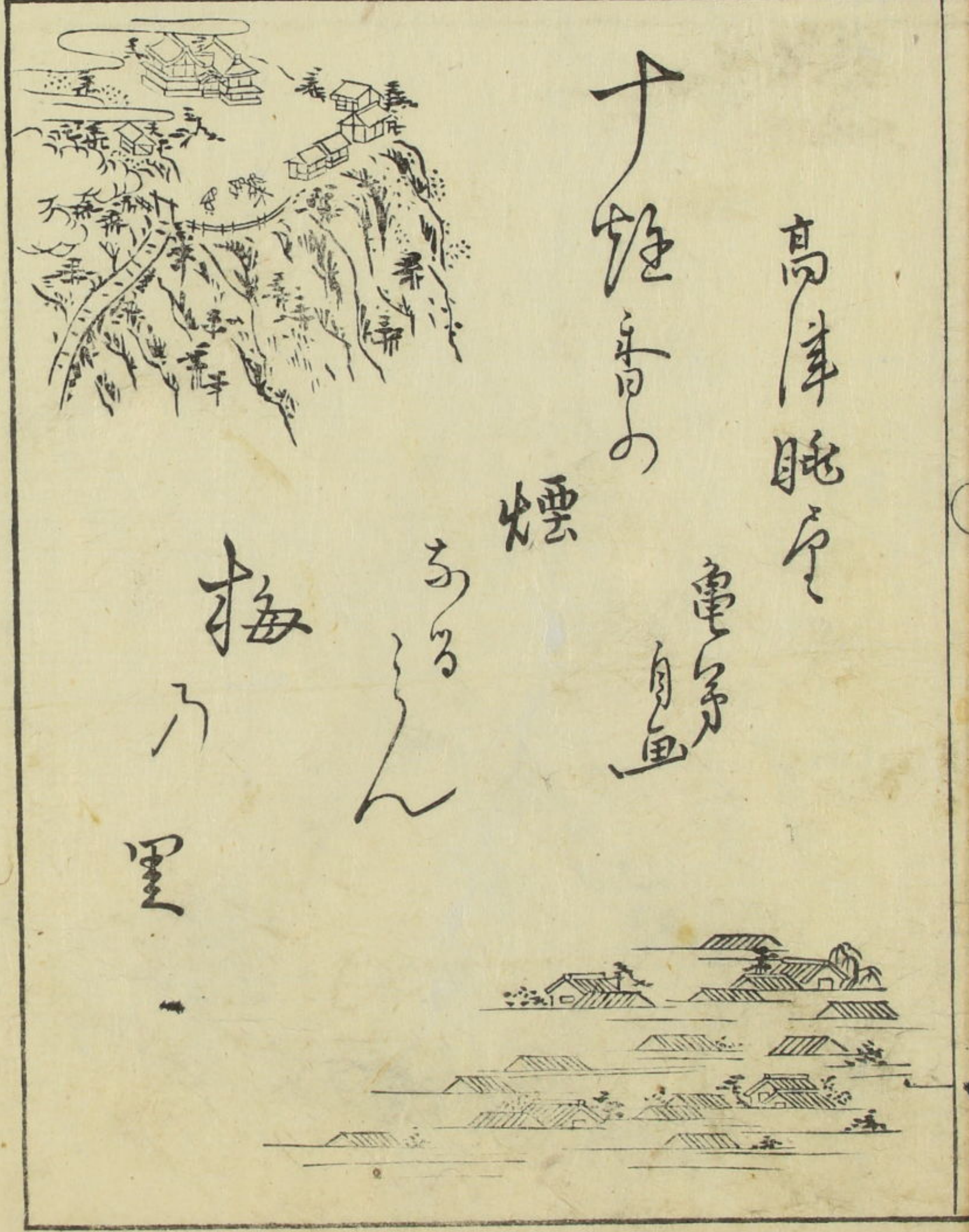
背高崎丸

伸上



丸子

▲口五



高津眺

十煙

煙

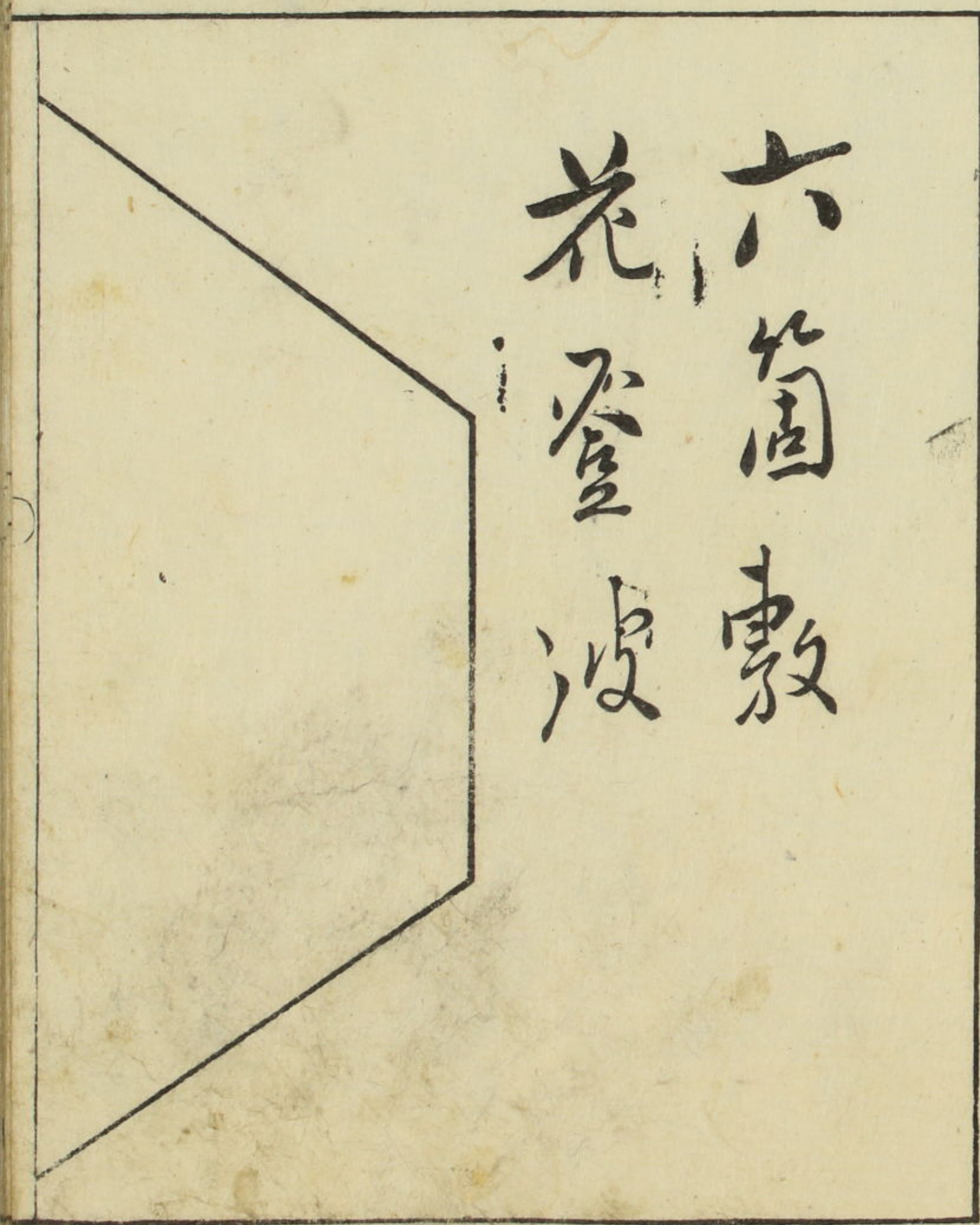
電車
自魚

梅

ある

り
里





六箇敷
花登波

▲口六



穉雨也

身柱

古種

之也

久農

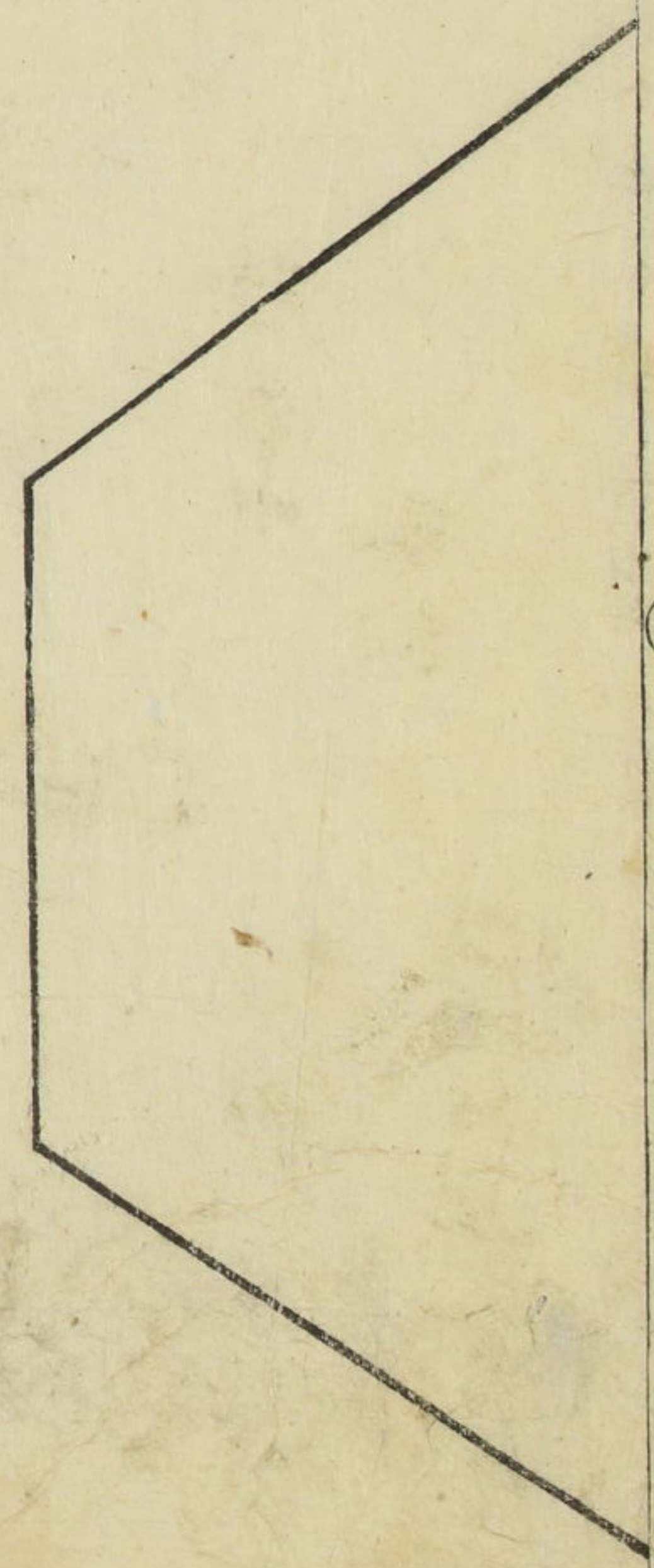
西



羅上

是兒婦
雪吹哉

叙少



古は子や

赤い

凍る

嶮山

丸太



洛机鳳亭
湖平

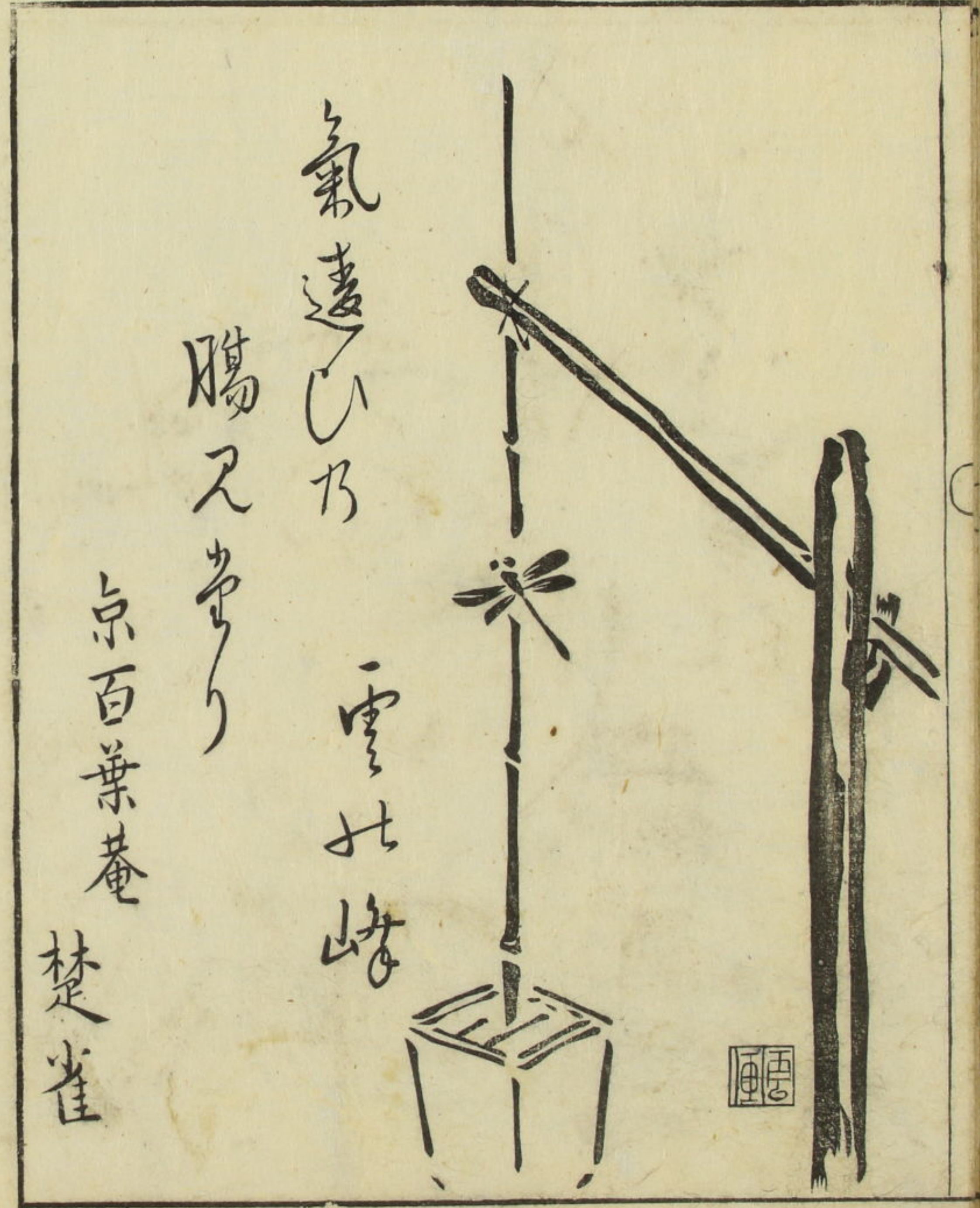


△口七



名月た
 心よ
 写る
 数
 の
 陰
 故
 郷

△只八



氣遠い乃
 腸又
 雪北
 嶠

京百葉菴
 楚雀

田田



道中

蝶の

纏ひ

破草鞋

河川南光原

東耕



▲口九



月夜

望

嗚也伏櫛の

洛

空寂入

美波泉

玉葉

佩刀若

送儿

鐘

菊

同所

傾中



△口十

白一雨下

一丁跡乃

多心

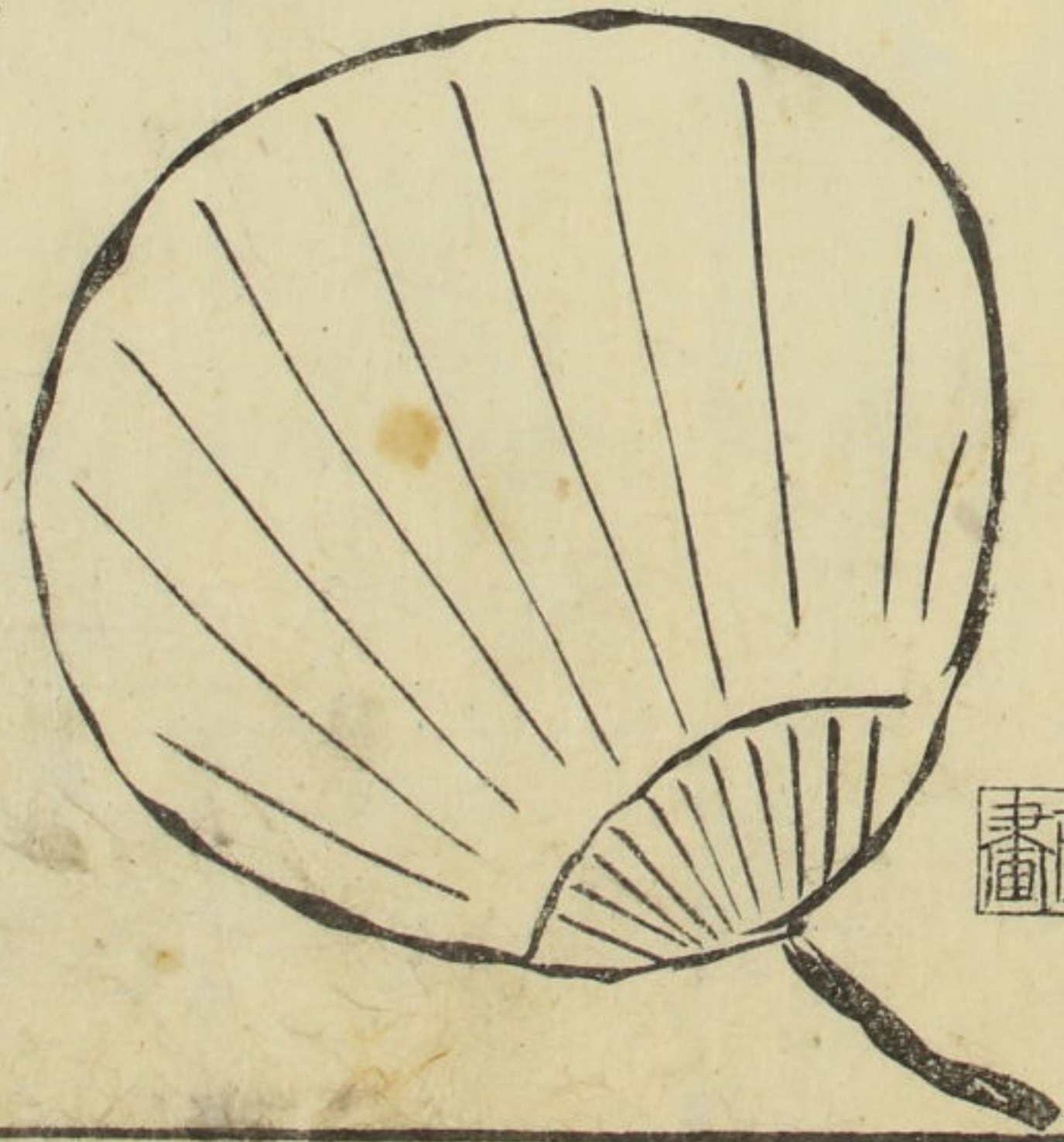
聲

同所

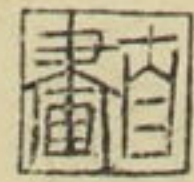
歌枕



平高之
 日之
 人
 心
 好



伊丹
 波尊



▲口十一



八
 下
 山
 之
 聲

秋乃如此

三月拾一日

一
眺
之
久

同所

如
醉





深
 悔
 名
 ひふ
 けい

千路莊
 應律



△口十二



真
 頼
 毛
 七
 如
 如



松永貞徳翁才五世学脈
 范居士



田舎

一色ハ

小島如古分々

連繫款

愉々舎

芦葉

▲口十三



片道と

土の

若くは

茂さ

陸澤雁雌

自画

田舎



張

々

行

二日

茶の質

子袖堂

素柳



▲口十四



博明

雪子眠

柳の南

阿莫利

河薑





名月也

神乃

玉子哉

寸がー
見

田

榎
坡

口十五



子子
耻子

老

一
如

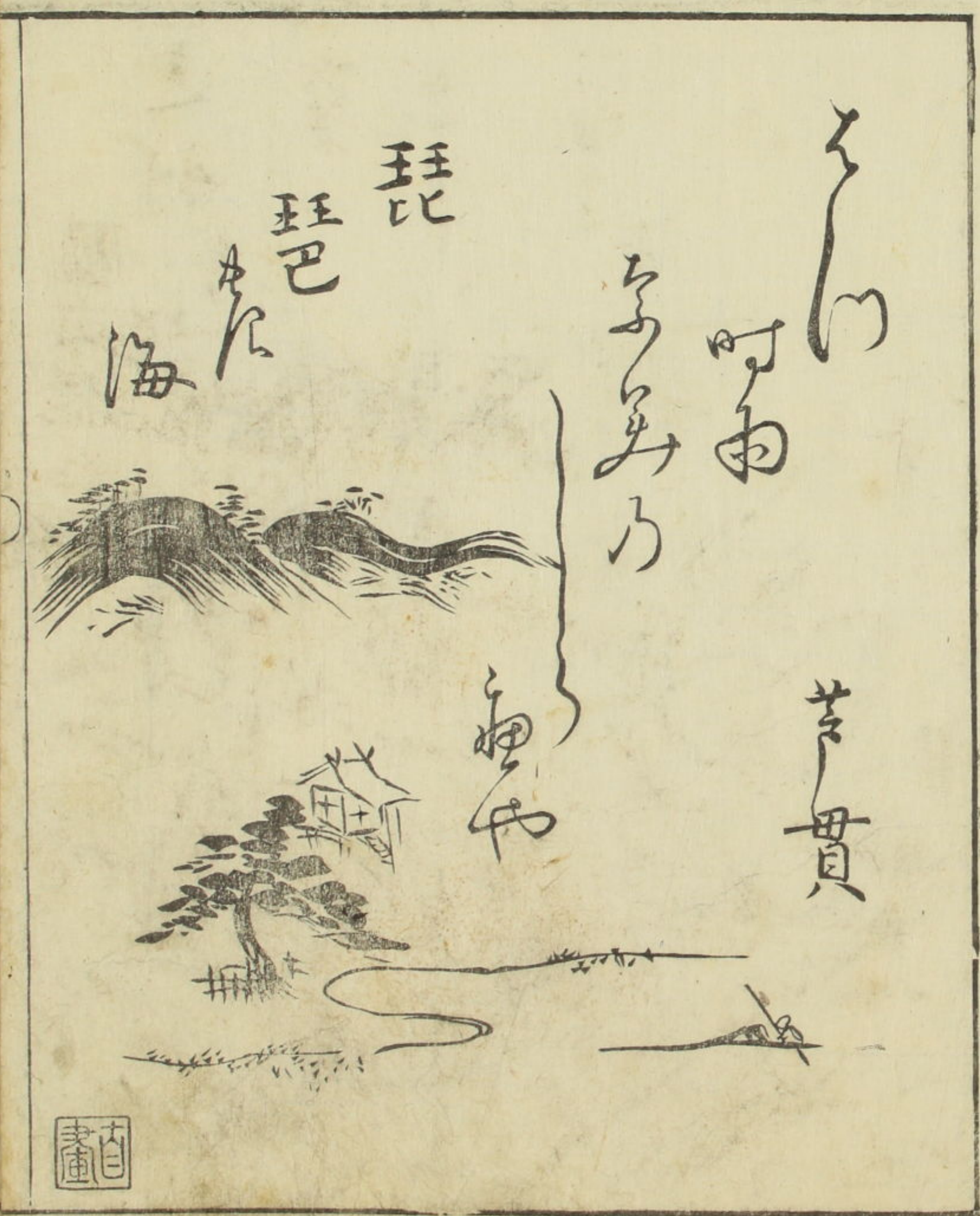
照
美

外

田

雨
鶴
泉







松茸と笈

廣步阿一山

魚丈



枯野

出と鯨

長乃

白妻

可

宗

泉之



▲口十九





如葉傘

様はら乃

真之可那

御能相見

雨降る程と

洛臨彼

乙晴



名所と

詠之

詠之

郭



一葉





名月也

色

禰

借名

ん

巴桃

▲口木一



叙夕

夕月也

金亀子姑

あふ

花乃





誰、たぬき

陽舟の庭に

布瓜垣

河加大ヶ場
和永



口亦二



西行 花

幸如ふ山也

柳

陰

西史





▲口亦三





獲鱗解解

四所一を花のき園に
さくた

余夕字



御津八幡五所
巨字の捧とあやかしき

化つふも園とさすり小

種心

園



▲口亦五

詩
 志
 志

二席南

自画



清
 の
 音
 々
 々

己
 月
 雨

芦篋

在中將乃去やん花をむくのあめく
恣んりゆの毒子ゆくと年一と咳
之詠あく異ふて一陽地中よ忠
美しあり蒼を根紐よるはく青陽の
時を何やまゝ次良盡んゆくの人衆
口を脱く絶多櫻入ふらるるは
春らるる縁もも深くゆくと古人の
賞亦預りて一也乃蒼言く何とすや
教くハ一物も残る下戸乃とんも
悪ありくとるとも盛を必衰とふはす

▲口亦六

始終あり安しな末ゆくと曲者夕、菴の
片隅も目を持形圓ゆて赤角あり七位も
有らめり石ありて長を引く寸とのみ搗臼と
時石磨らひ碓と号く陰陽二つともきて
天あり地ありまん木の二合も鶴鴝と類ど
虚して二夜もろゆくと快然とり筵あはで
耻らるの賢ちももや一外搗鏡の磨り
こり粉入り月ぬし二月の彼岸園子にゆり
雪と何さむき枕のうらみ異な形と身す時
身んらりい三井もれ千巻もも柴屋所の艶
阿と翠月のあきり標音安のほと名は洗の

團子名をとりて涼し果も時を暮るの精天會
 の頂りの勤畧や此方よりしりぬ佛あり
 高下有るや供乃座の草の葉にとりて縁の萬
 靈をたがふとたね中も東くあ合ひ喰の境目倫
 苦しい豆の粉の勢に古敷の音多たの杜舟帰の
 名目国り一豊年のあめ雨のふ村雨の音と皮一
 敷寄者の舌はくると何より二向のかりはたれ乃
 登よ乙子のうらんな加子のお合を待月のき縁農
 者たせりたうら小嬉し月一の赤團子に味方の
 勢とくけま猿うたひ参言り共能を月香に晦
 明くぬく風客はくやれ雑談の底川一の尖りん

▲口ホセ



芦選

猿
池
ゆり
啼
と
う

五五



木芙蓉

樹と離れる

さるる

男権白画

口亦ル



倣周子之
愛蓮說

吉慶此

一乃宝也

君子の

根

北屋雪松舟



放つ名の的に喰ふ

秋の草

東海



△口亦九



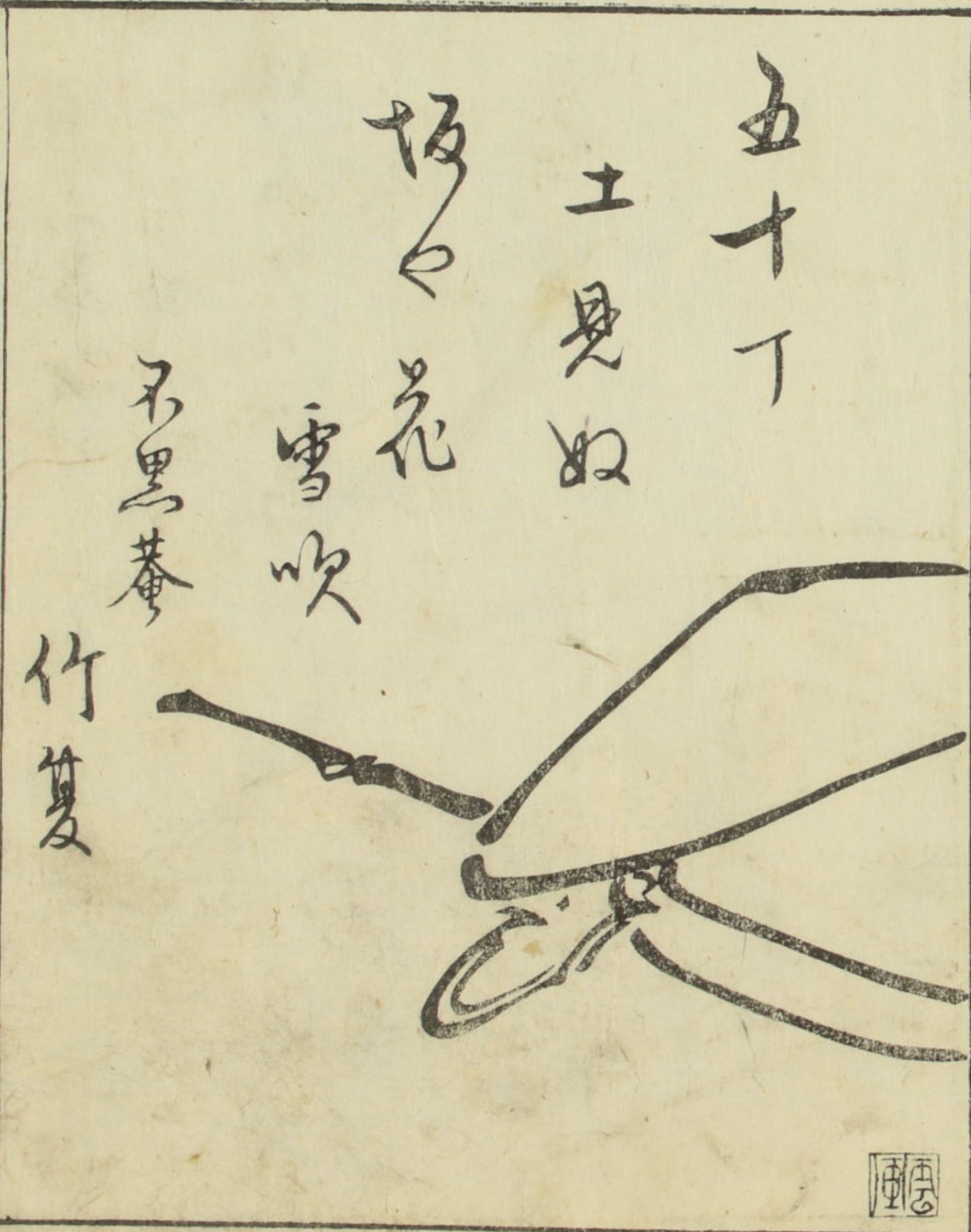
谷河

子と女と酒

巽と哉

玉史改
嬉耕

自画



五十一

土見奴

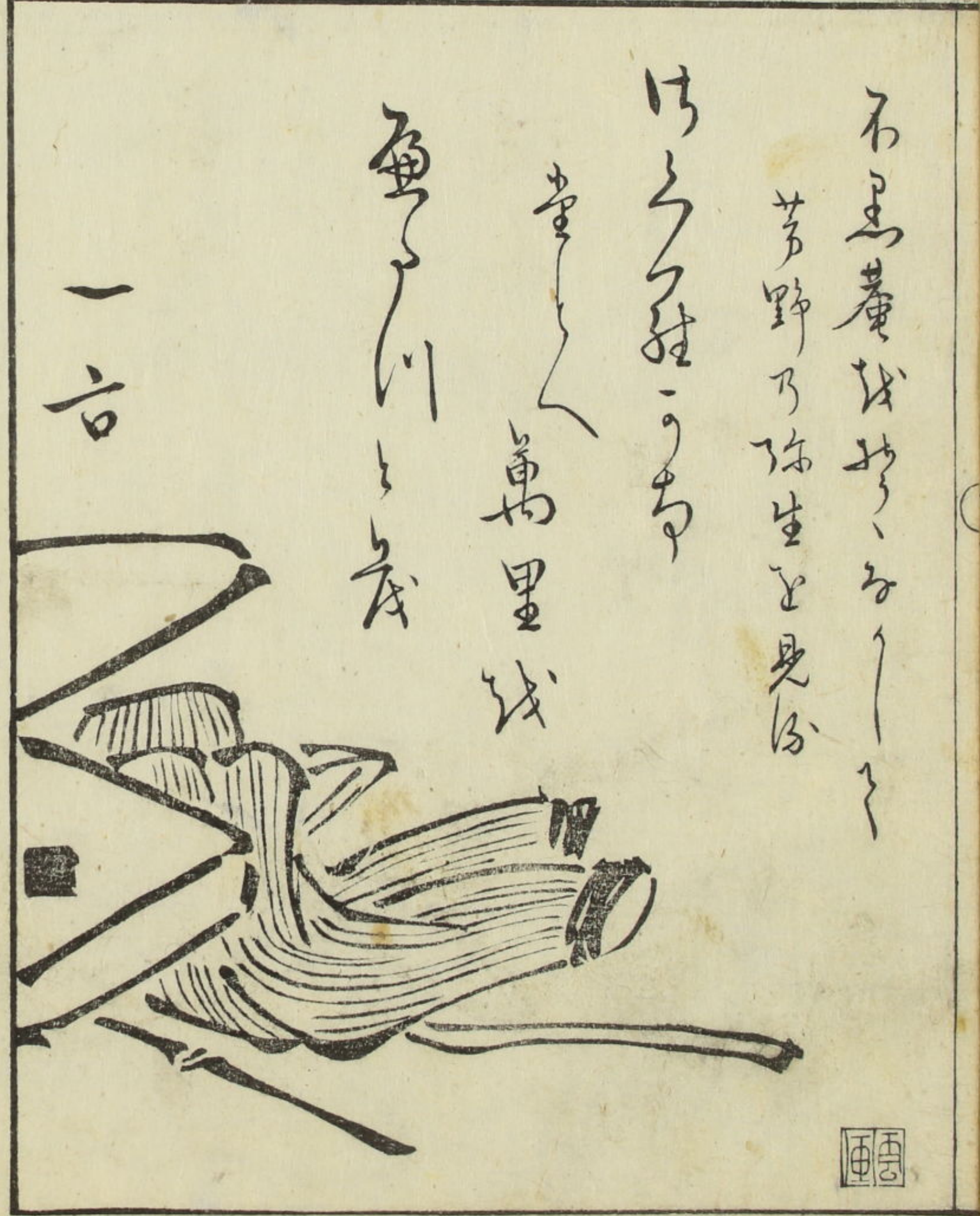
坂花

雪吹

石黒菴

竹笈

▲口三十



石黒菴
茅野乃弥生と見ゆ

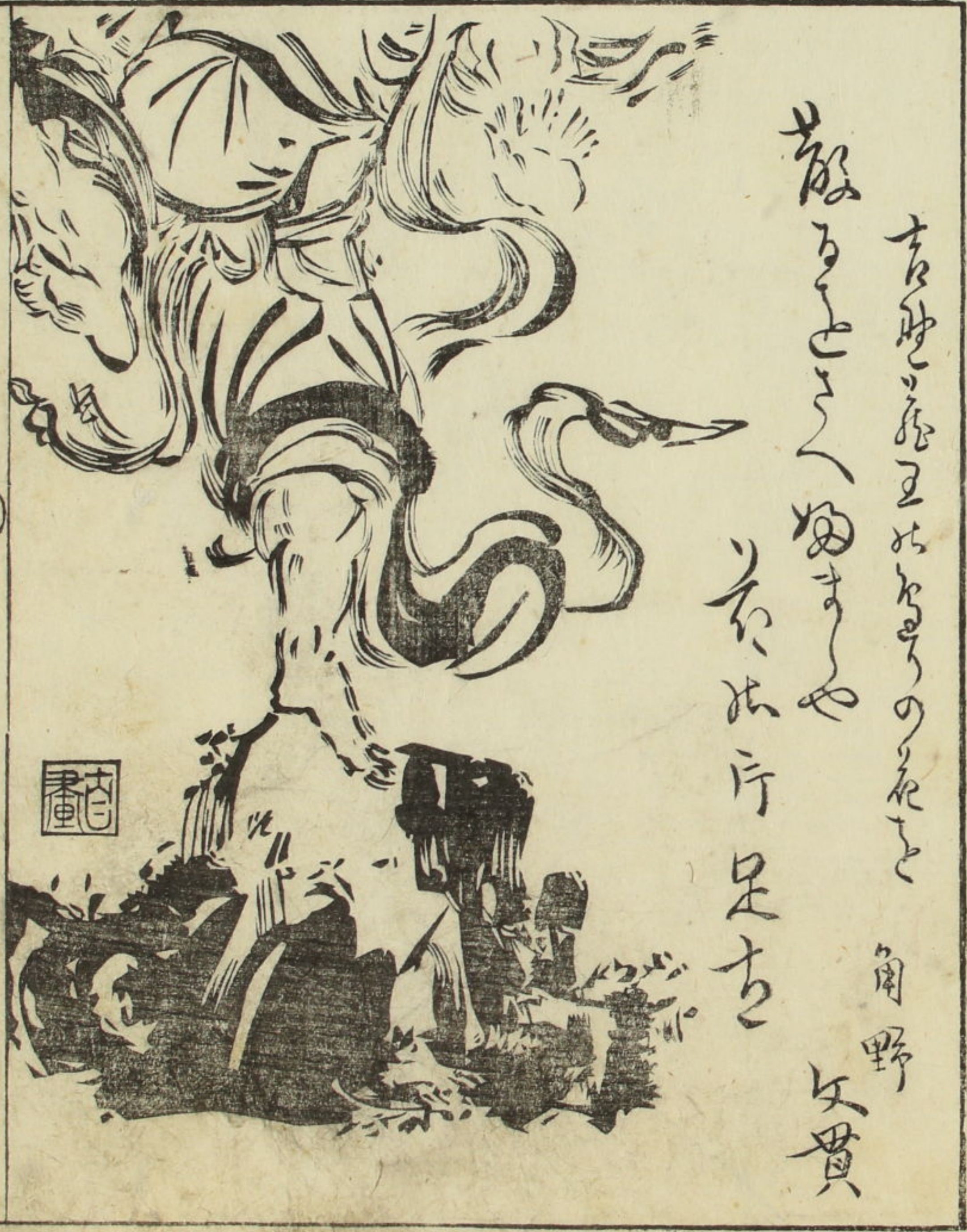
石黒菴

萬里

魚子川

一六









三十一



西

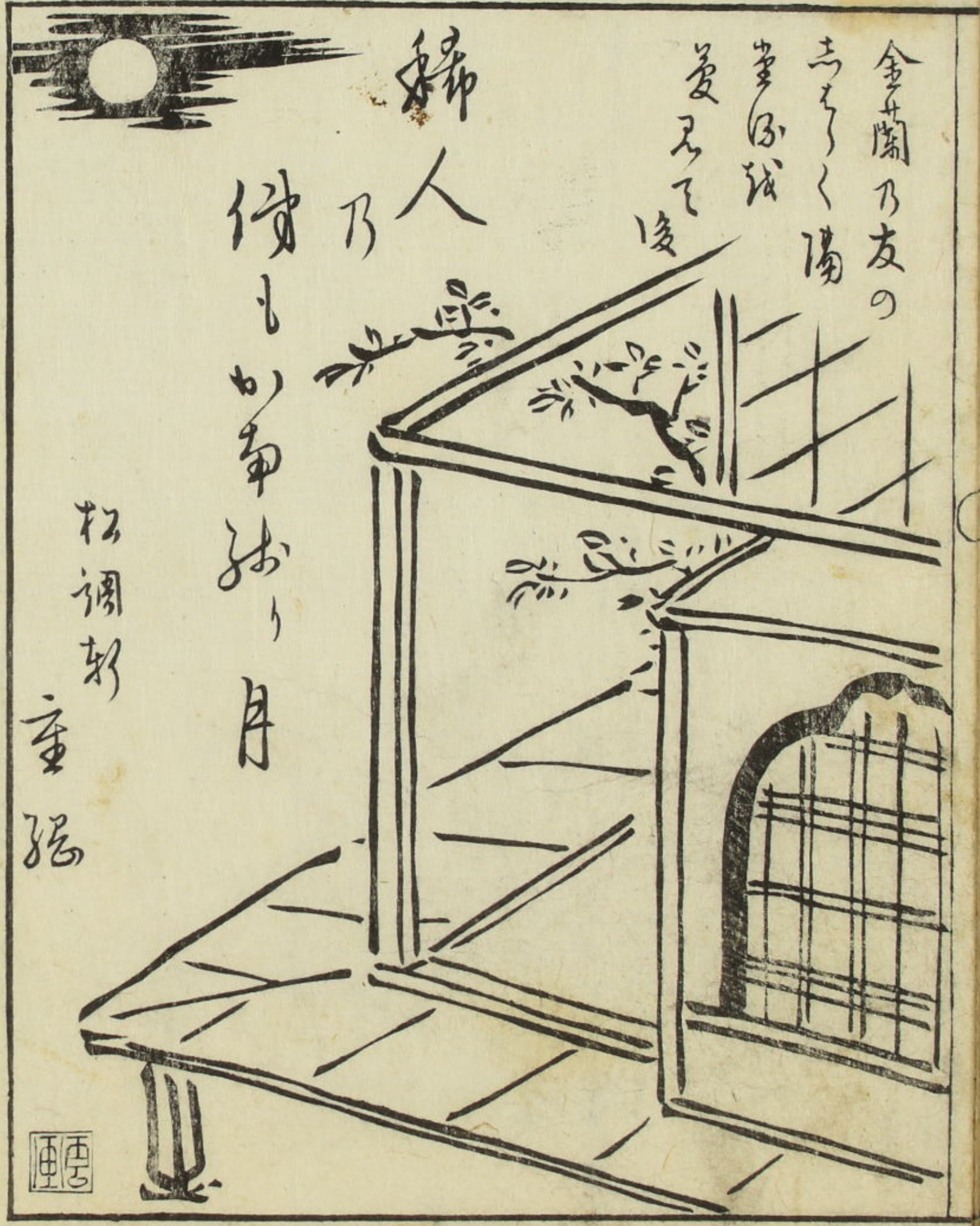


夕織と
 ソナヒ
 長如
 山
 所
 記

家笑



△口三十四



婦人

乃
 借
 月

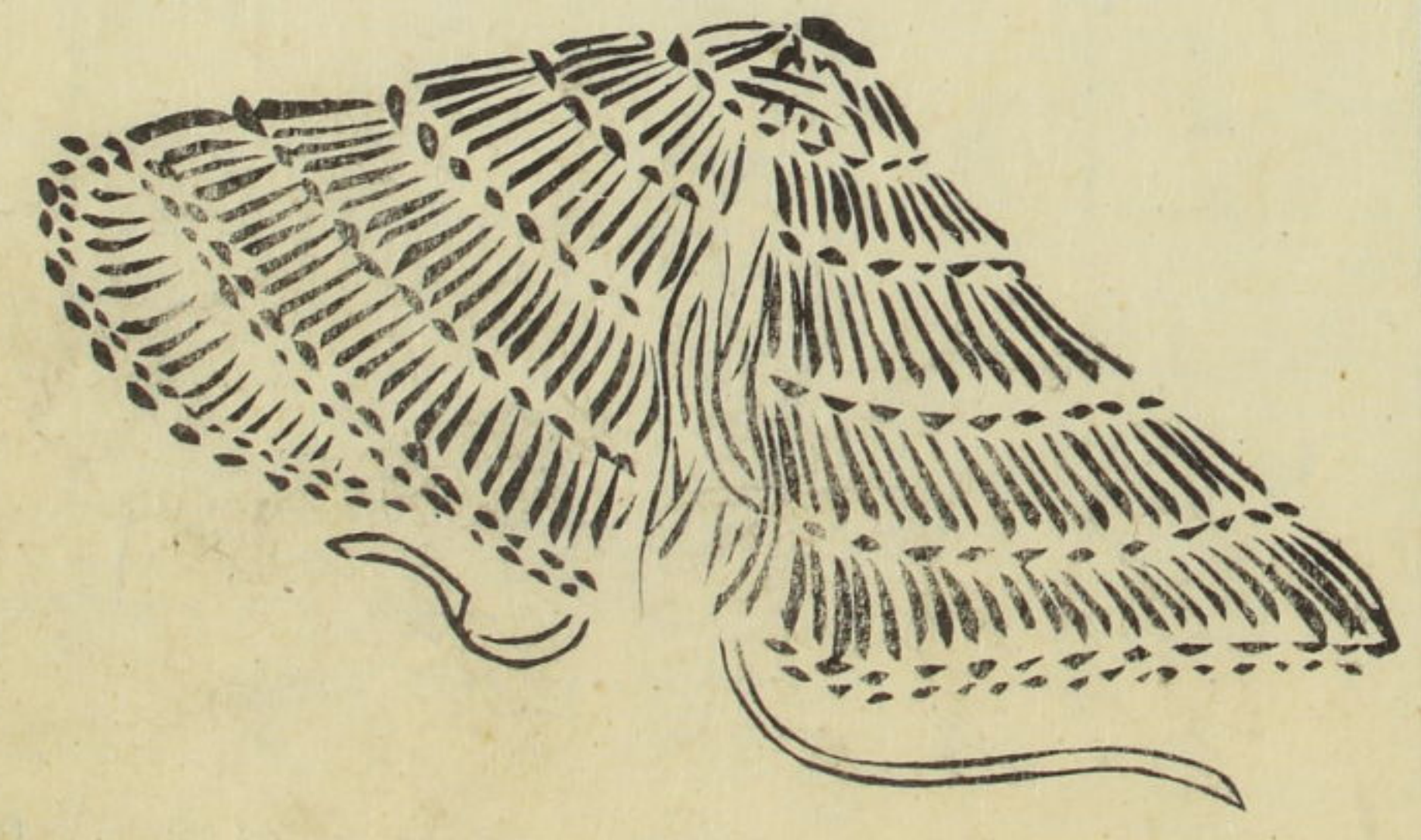
金井園乃友の
 志
 後

松調朝

重強



禪
 又
 子
 暑
 加



三
 橋



三十五

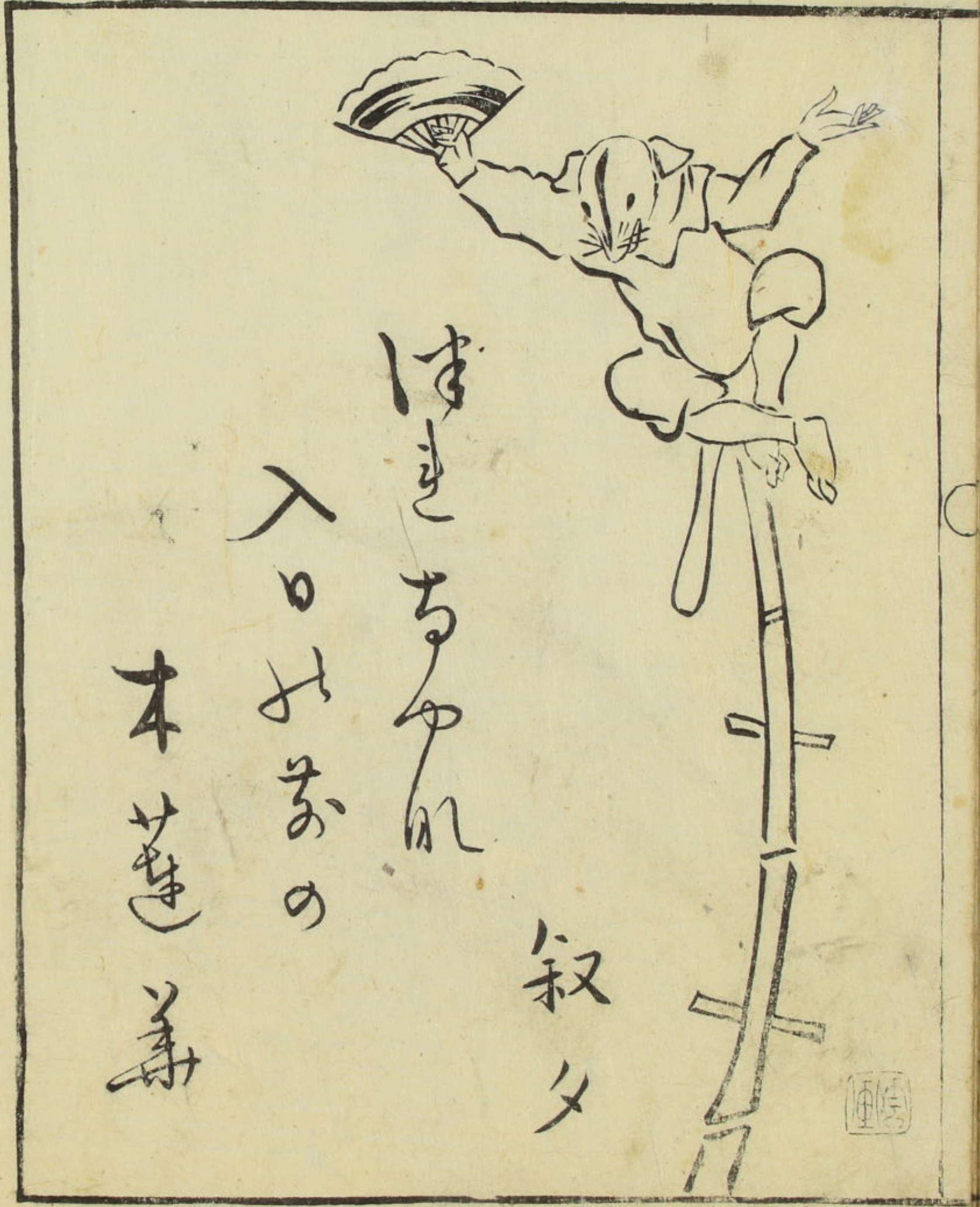


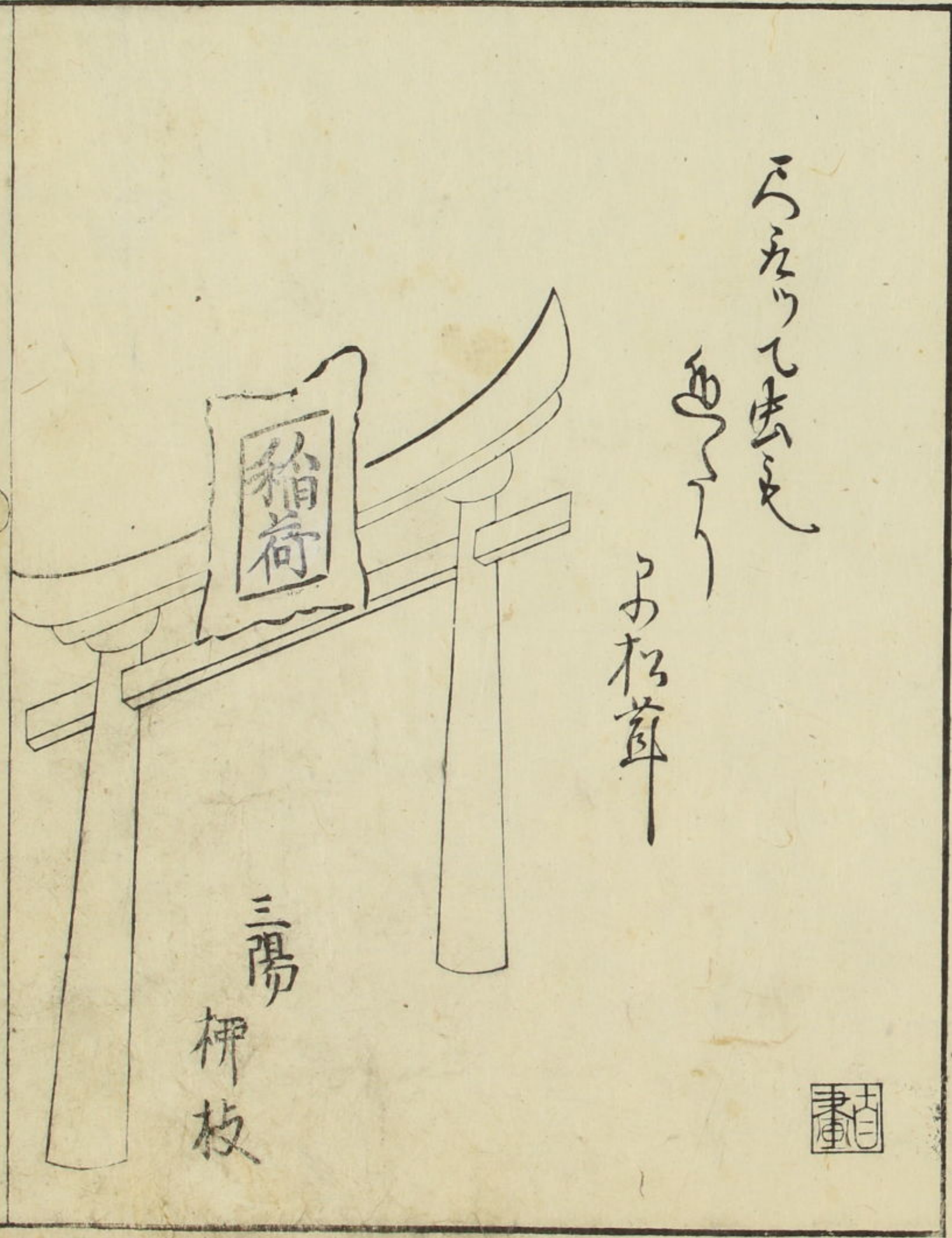
い
 焼
 言
 思
 嘉
 竹





▲口三十六





らるうし虫足

子松茸

三陽
柳枝



▲口三十七



御

しん

心

鳥の群

三陽
猶月



凍りてくる

りてくる

見守

蕙の角

三羽

磯隣

東枝



那古乃海とさく

又駕めく博哉

持たずおの

常なりぬま

ちくさめ

夕下道

仙魚

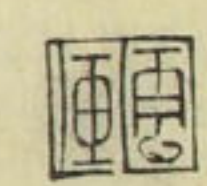


月集より

全盛

なほ

は



甲衡

△口三十九

庭前のまぢろといと面白く咲き
てて室々も不厭極上よ
枝は実折揺流む一竹舎
画の面白きんあは是れ
ありし思ひ彼等
不停綴文句不加息かく
南紀
桃花
自画

正真

黄鳥此青も

香も

那

梅の咲





常々なること

知らぬこと

ふいに花

乃ち女



▲口四十



南紀磐出

英枝 自画

道一は友達の

折々を流す

あつむら河川舟中

此歌

岩法心

いづれおきの

志るゝる

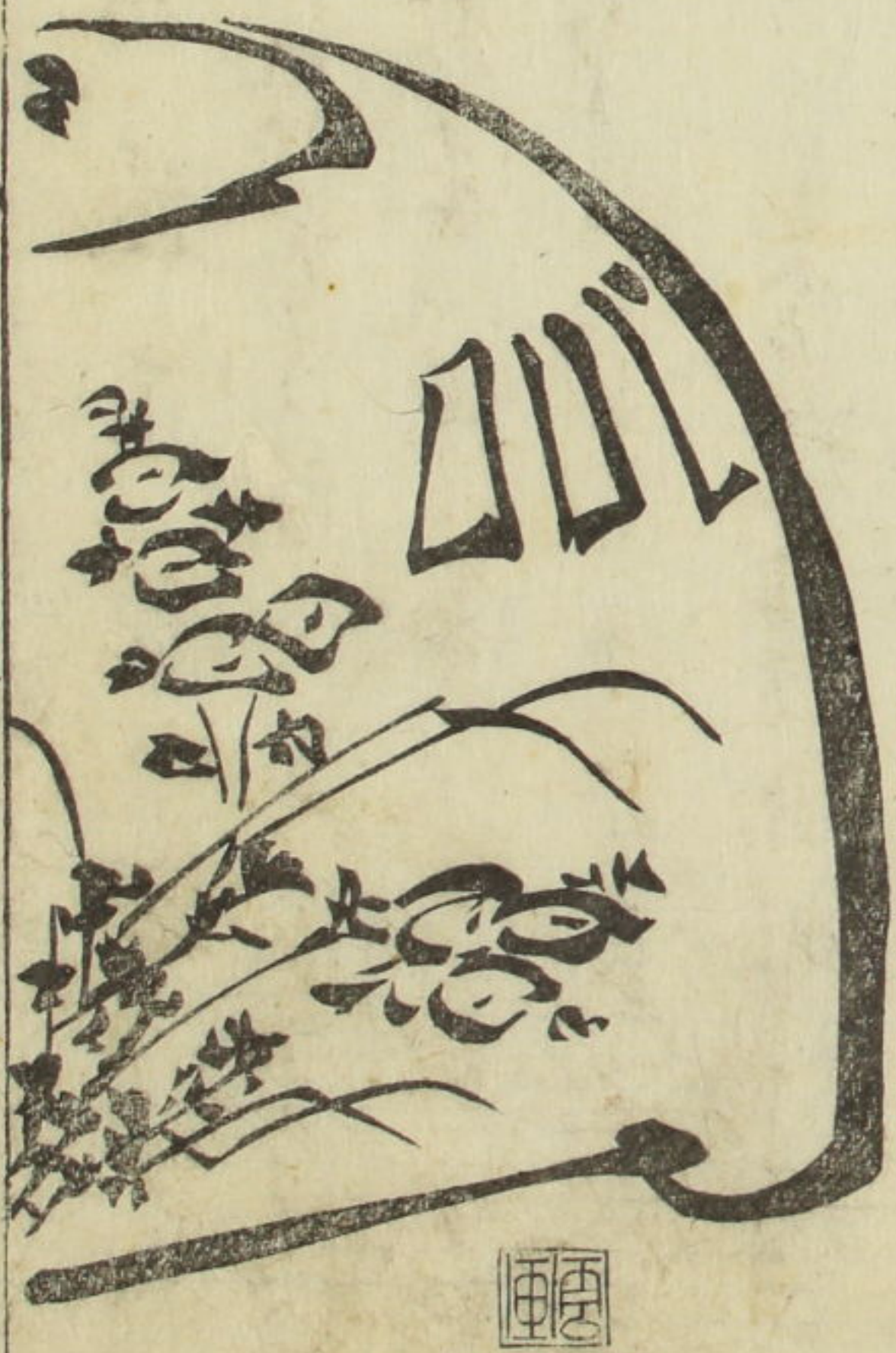
火桶の銘

はましくお波の橋えりきりきり余の樹をたもつけ
来名のおの意者の婦とあきくおの居りて
園中の伽をたのほよこし一帯をたもたす
あまの西籠りうた名をきり次姑も増え
顔の羅とあきりゆきゆの介すゆきまて
さほくおのえりきりきりおの居りて
名をたもたすおの居りておの居りて
すこしおの居りておの居りておの居りて

夜に登りて

一草舎

はましくおの居りて



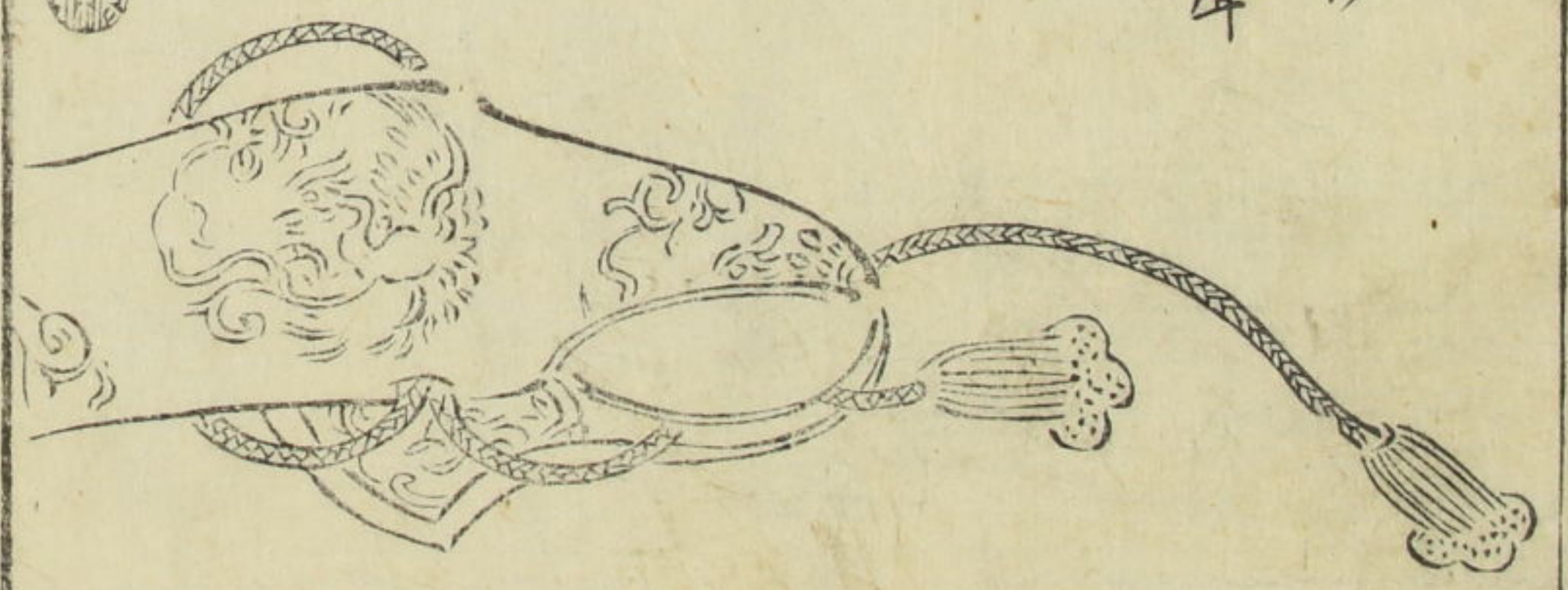
基黃鍾以舉韻望儀鳳以擢形
寫皇翼以挿羽摹鸞音以厲聲

啼之泣を

相はるるをたな

上子の月

叔夕自画



▲四十一

釣瓶ぢんの

安ん

は

ん

すん

鮎



千雲堂

馬耐



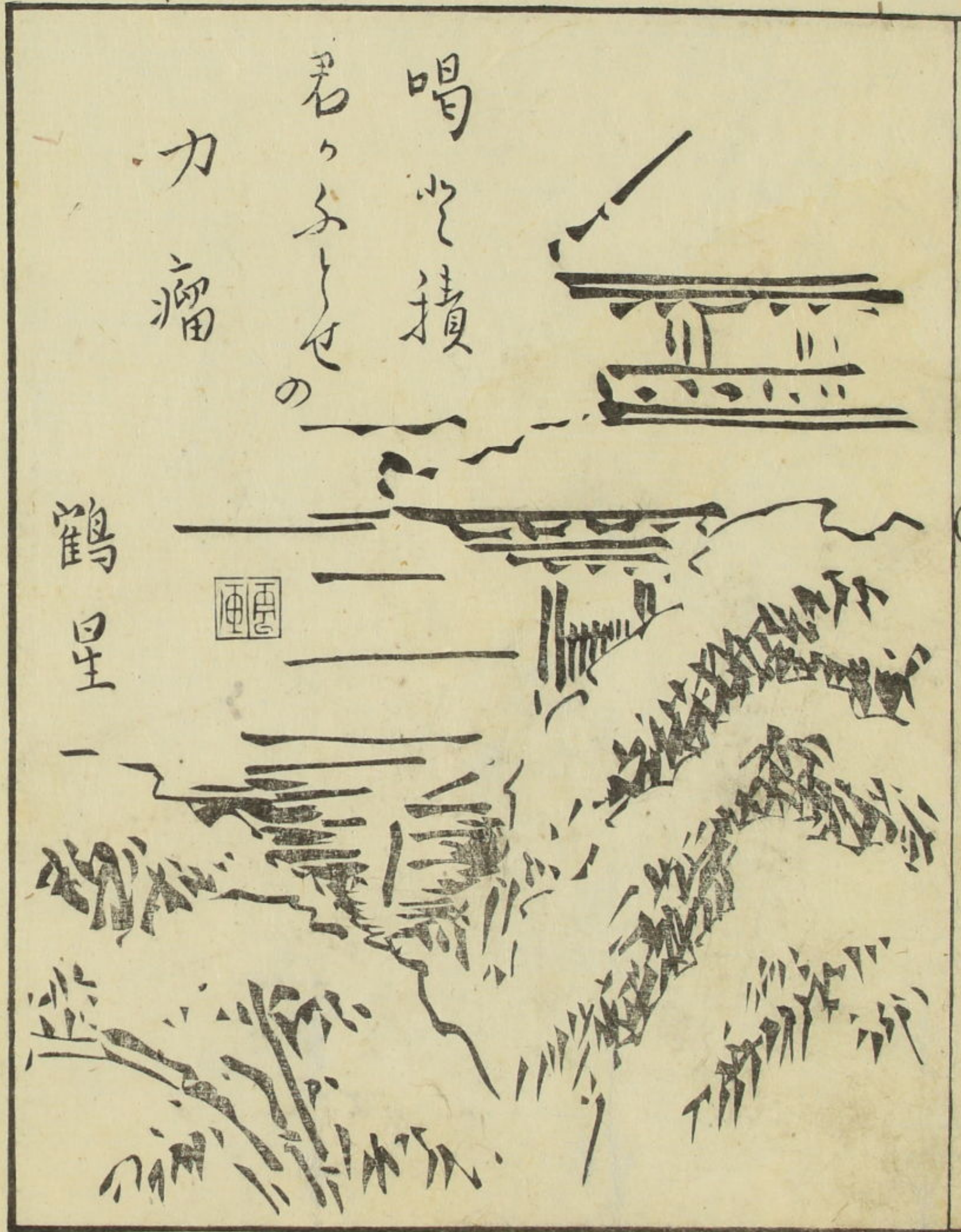


菅子
度
お加馬

雷童



口四十三



喝
君
力
溜

鶴
星





兵

吉

棧

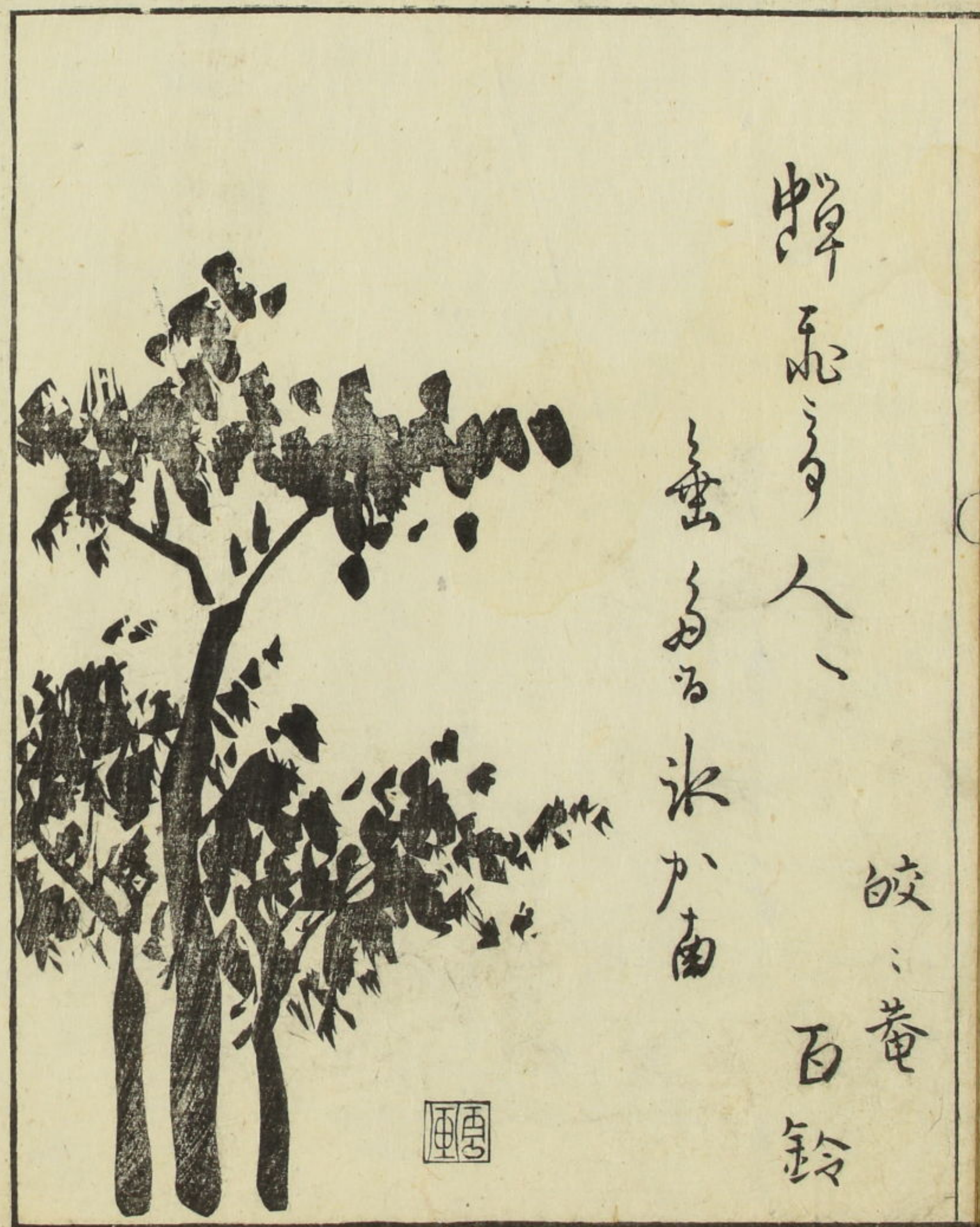
如

為

朝林堂
千榎



四十一日



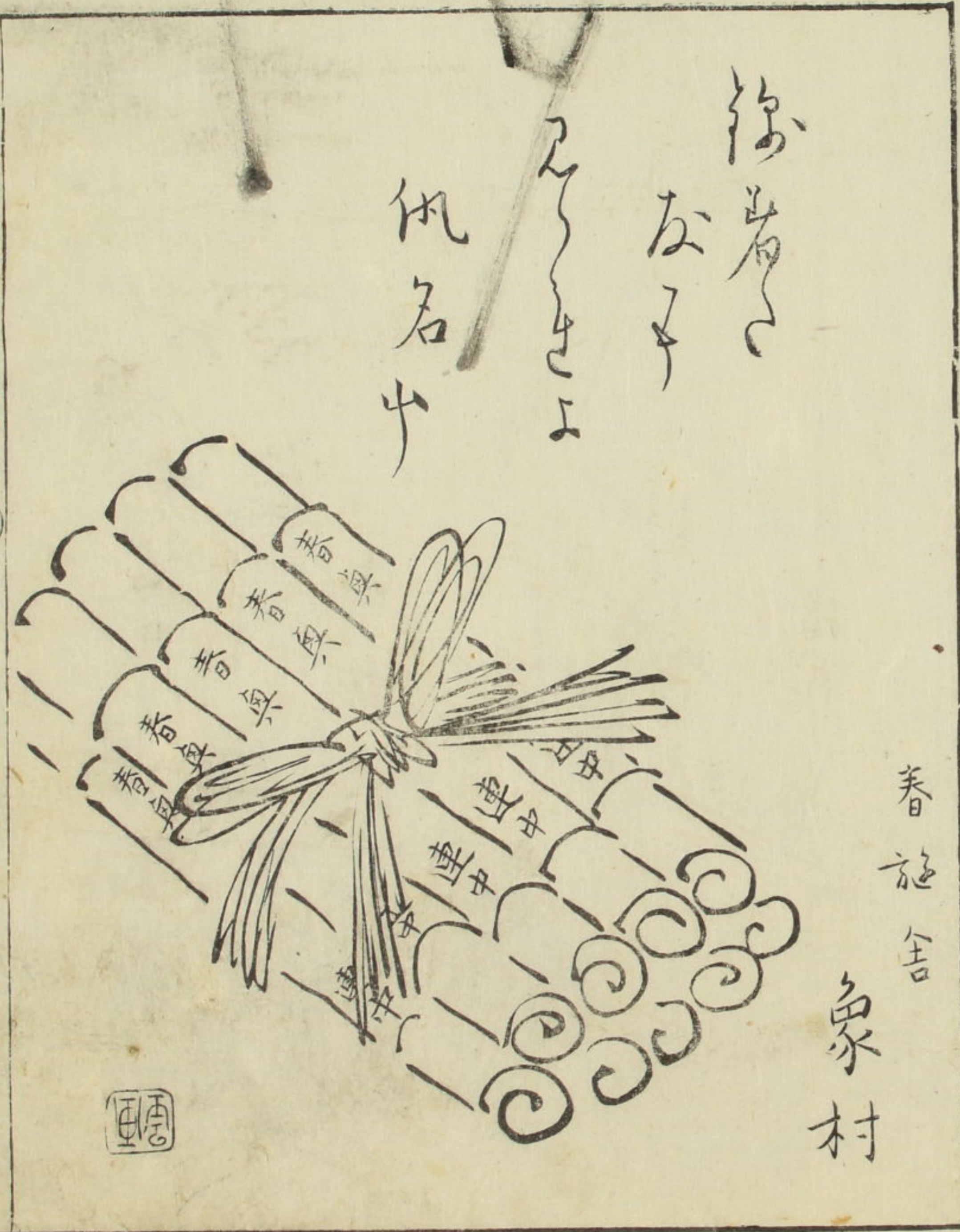
蟬

多

皎

百鈴

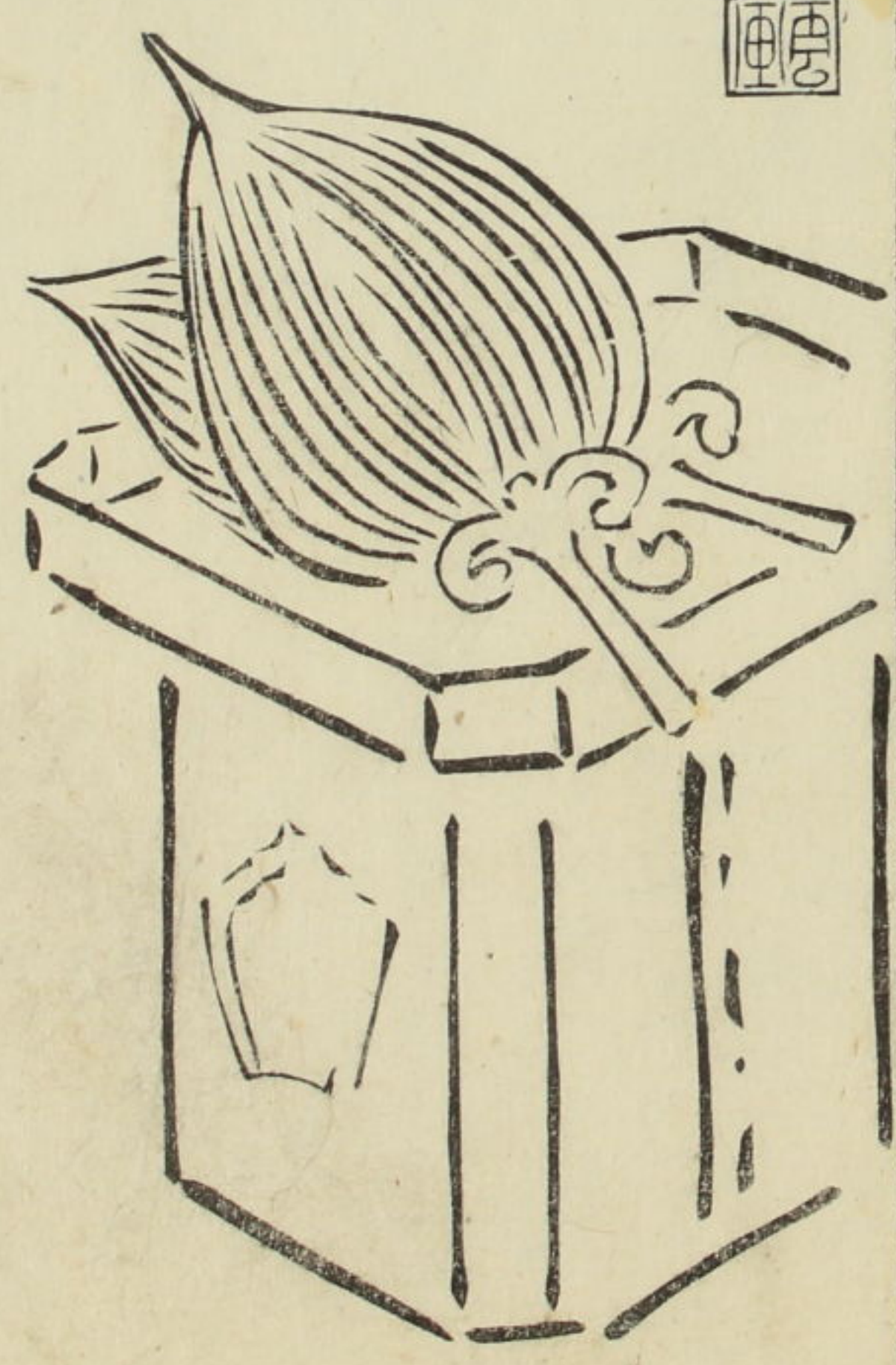




四十五



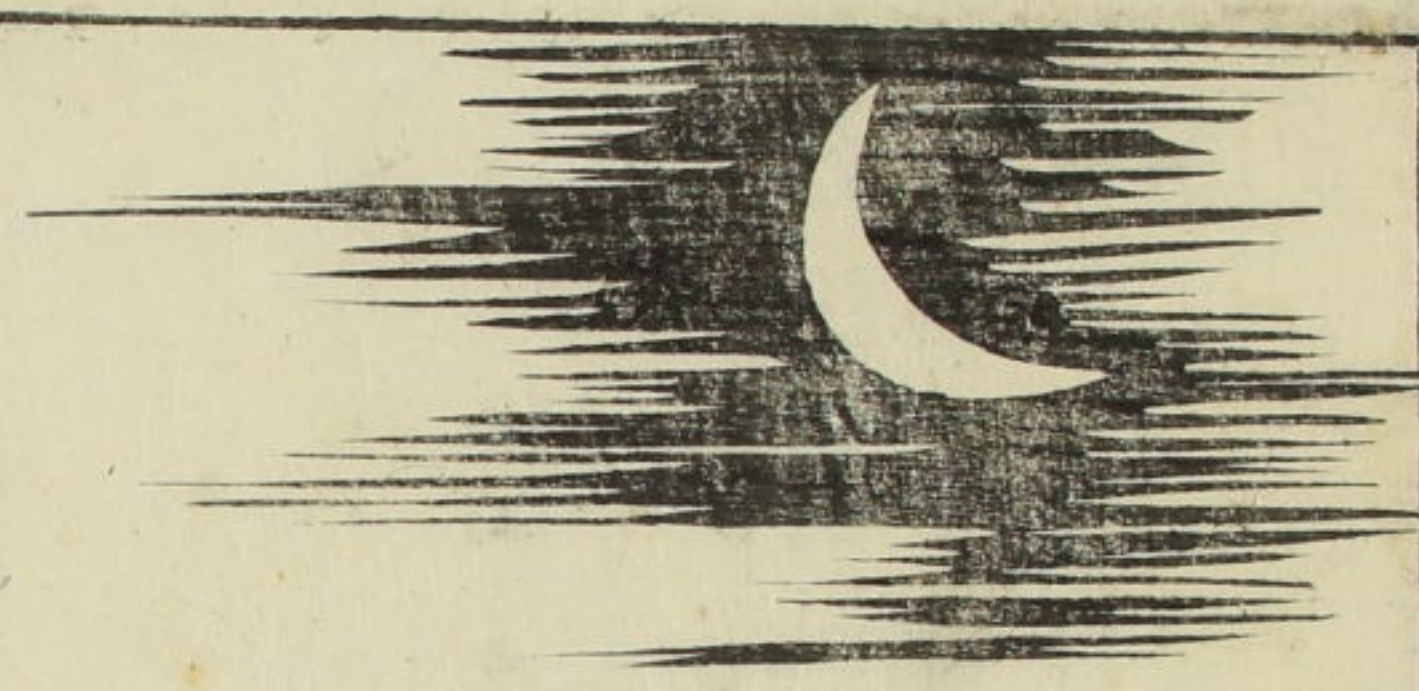
十
 中
 盤
 空
 見
 人
 庭
 の
 日
 當
 水
 物
 の
 改
 之
 貫



口四十六

不
 死
 如
 菜
 厨
 子
 山
 人
 公
 羽
 衣
 狸
 文





水
潜
子

至
潮

菜
也

新

田

菜



丹
菊

嵯
峨
子
雨
多
花
の
浮
木
と
池
や
ら
る
庵
山
や
ほ
ら
り
る
久
に

雅
子
留
音

弥
生
儿
産
一
と
龍
子

德
保



四
十七



▲四十八





明
 ちよひの
 中
 茶
 か
 流
 の
 安
 や
 力
 溜

可成



▲四十九



草
 ちよひ
 水
 怒
 や
 穉
 の
 明

斜紅

自画



東江子吟也
吉野、花袋

浪花杖木林

移鏡



圓德

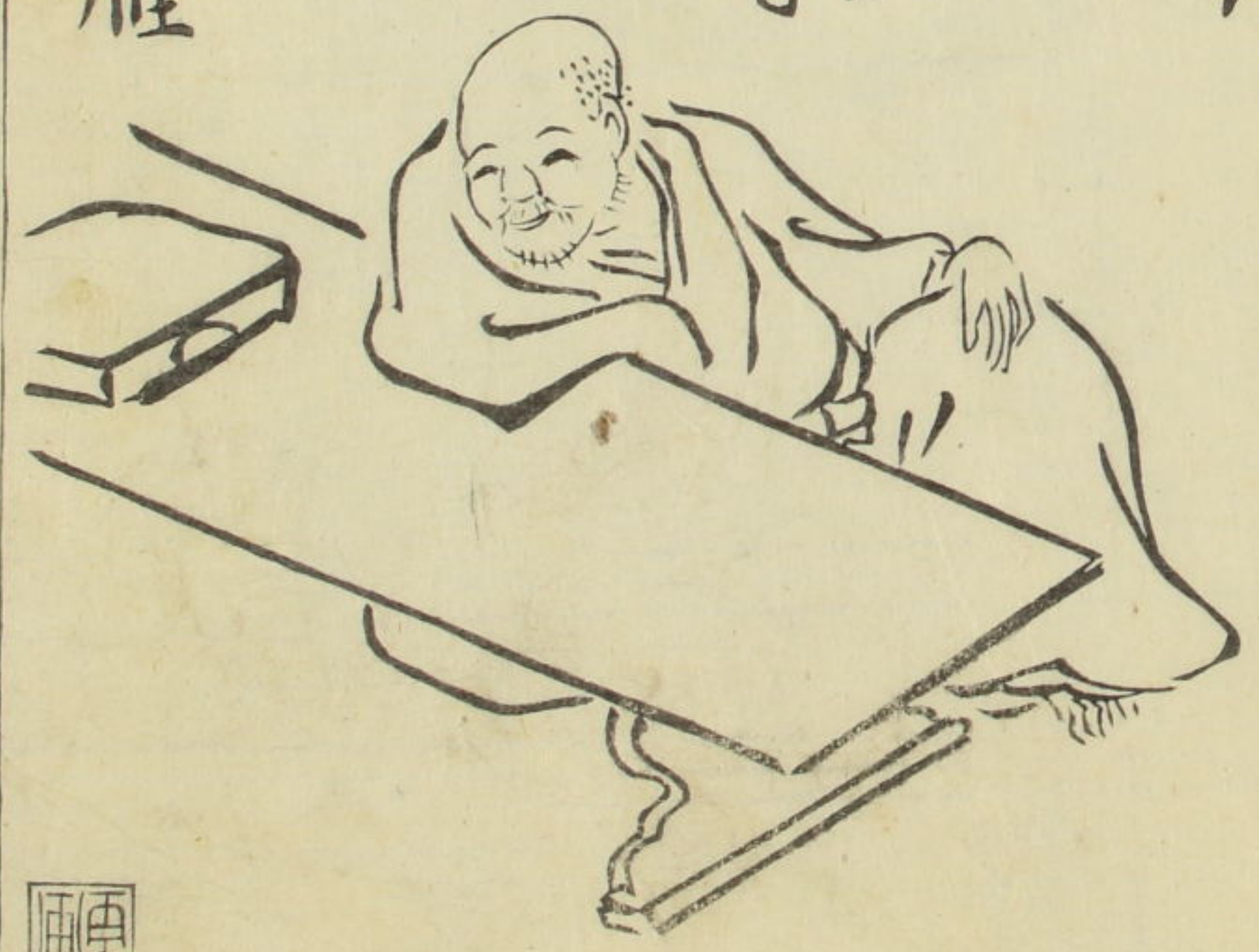
美乃香哉

寫了

風如

寸如

揮月集
其雁

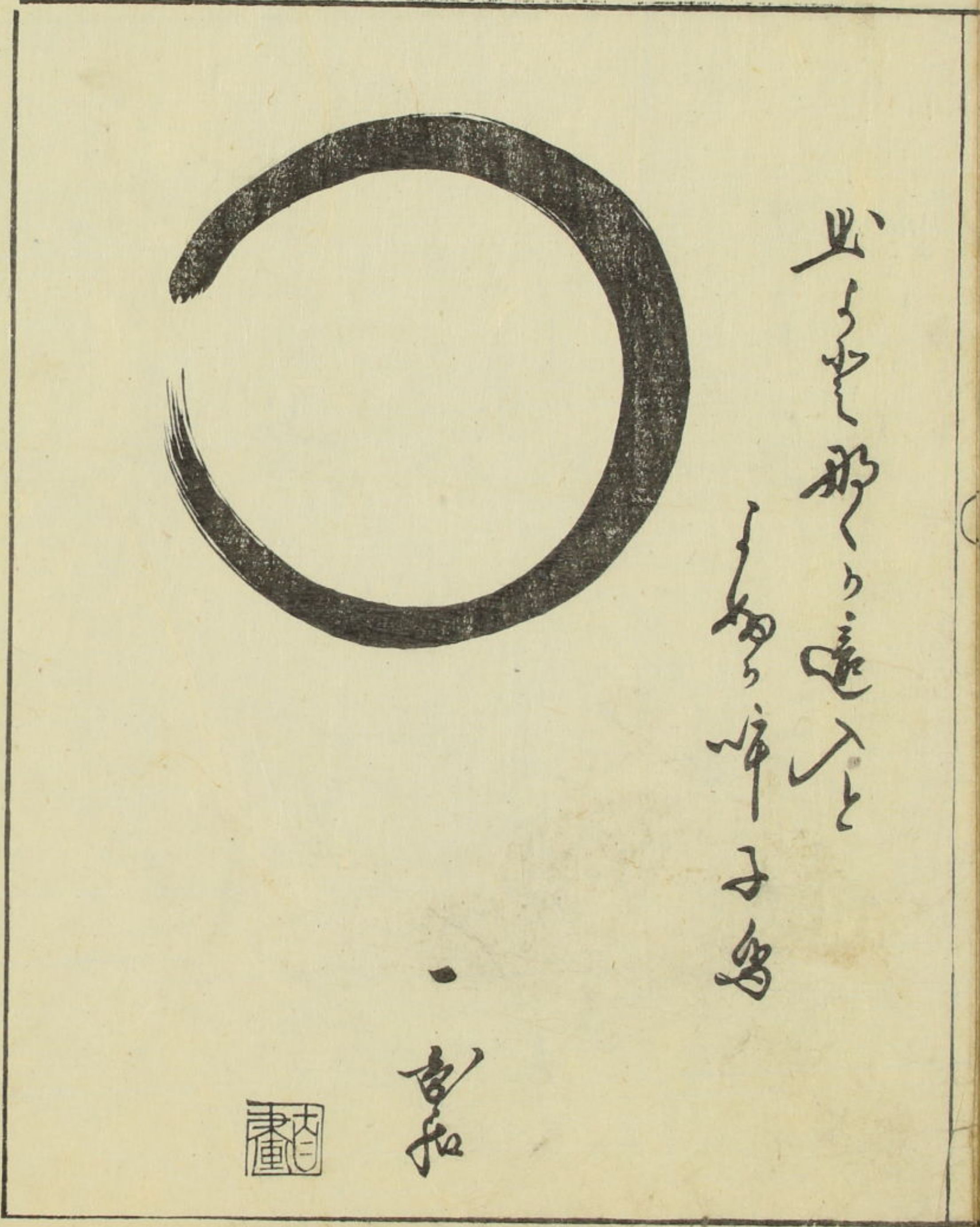


圓德

▲口五十



▲口五十一





▲口五十二





若水也

ふんき

星

ふれ

桶又あき

昆陽

占層



昼寝頌

叙夕

と休故念ふそははらゝ寫るとと好むの巳う壽
 誣とがけよのんふとそつり〜集用と〜りぬ〜諸
 有起〜ま麻〜世向通用の〜こ〜さ〜さ〜
 子〜剋と〜と〜関書ル凝る心神を損す白
 蝶〜の〜い〜只麻〜るの〜い〜ぬ〜ぬ〜ぬ此日怒の
 樂と拒と枕と圍免針と磨ら物ら〜と〜
 が〜と〜た〜つ〜る〜為〜大道〜く〜お〜と〜法〜と〜
 探〜す〜ゆ〜ら〜と〜皆名利の境〜と〜涎〜と〜流〜と〜
 と〜流〜と〜あり〜と〜と〜と〜流石に去の平麻を
 千金の價と知〜は〜褫〜ら〜長寝〜の〜暮の〜端〜と〜

ふう先吹只却る終つて自あをたすのあり第の
 魚藤の如時とまらぬあうう余は月とみえ
 つけとも見え海棠の福あり魚と先強生の
 雨農朝とら持見えとあまらる九人向う
 魚藤も時あつたしとすれ吹頂あひん
 拾ふ身程きたゆあし眼とあまらるうさか
 るの法いさうく時とるあつたうう時後
 夕かあう持あつたう岳らるるの芝葉動
 菊堂の孤志荒鳥芋あんた持る風老
 おんすあつたうと魯竹の意ら下倒の
 張まらうあや一の羅跡もあまらるう

俗塵の中も寂莫のゆけりととあや
 比時小蝶の翅を散んば誹謗のあまら
 うと知らるん似まらう

幅幅

あまらう

見え

あまらう



提
弓張月
燈

唐

源之位

菊弁

口五十五



尾
體
小
后
女

唐

雪

新やう記

綿帽子

形

峯乃音



叔雅



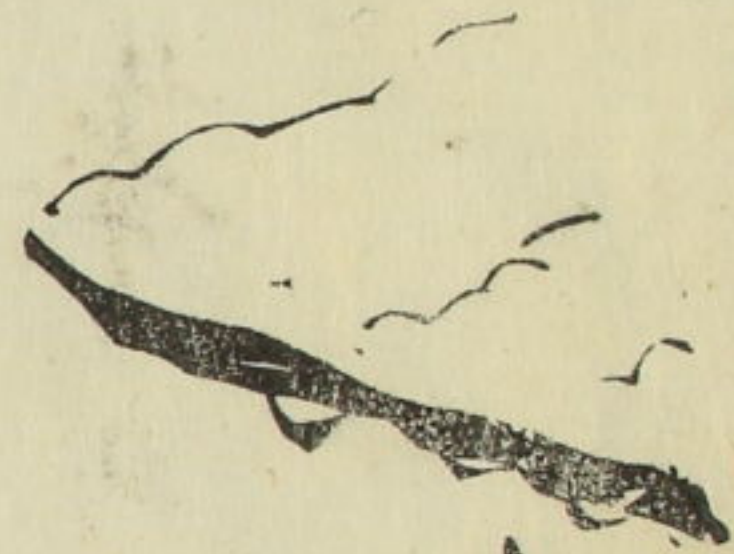
▲口五十六

雪比

ほ

かゝるの

かゝる



羅上



子心

大婆や

豆魚と

花乃陰



叔雅



口五十七

月

影かきり

月亦明し

花乃陰



叔雅





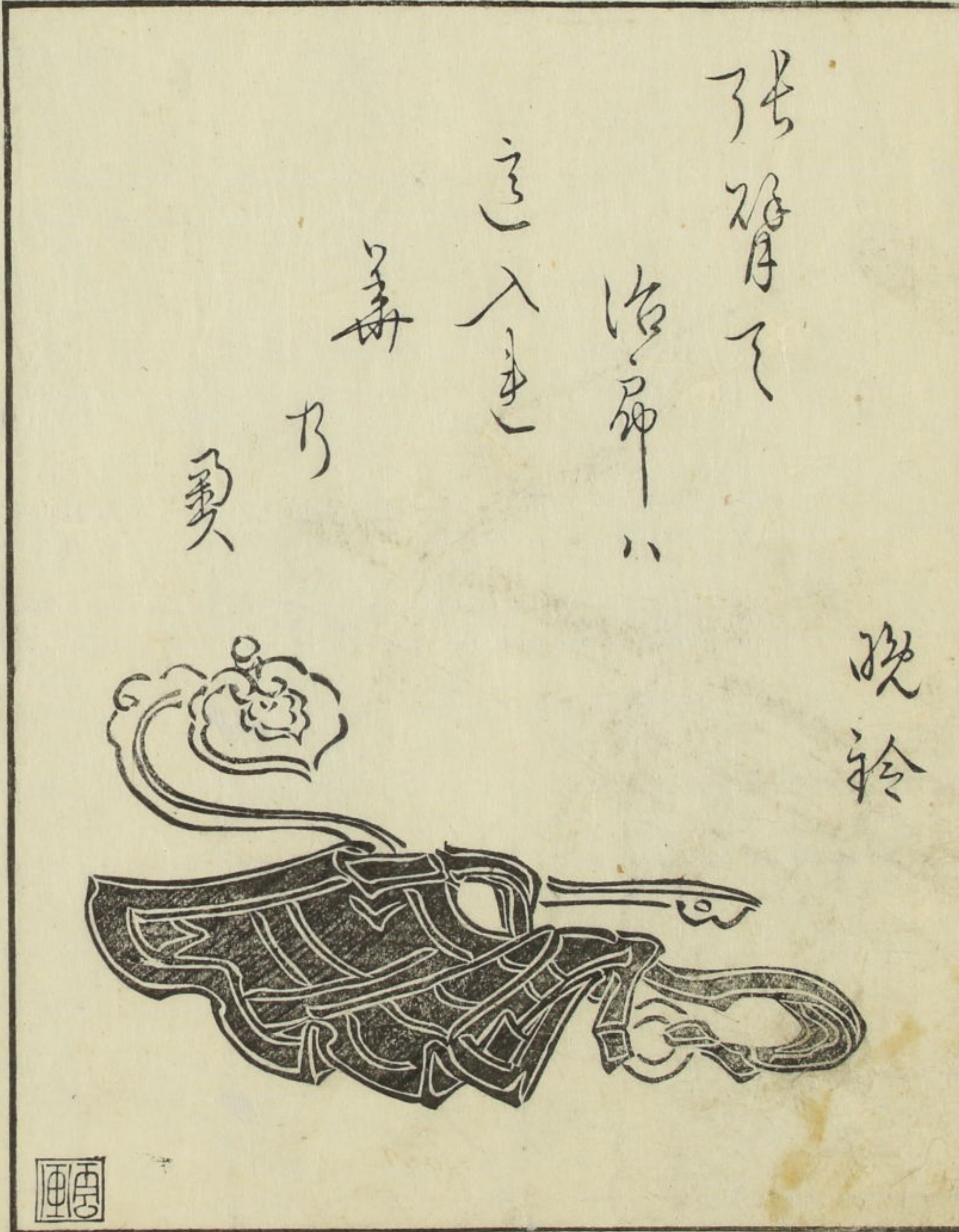
舟菱ハ織乃神の

楮枿

かきり
さる



▲口五十八



張
乃
月
三

治
扇
ハ

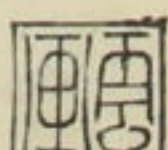
三
入
主

乃
美

乃

美

晚
鈴





風好々々

雨亦碎々

山片々々

輾水



▲呈十九

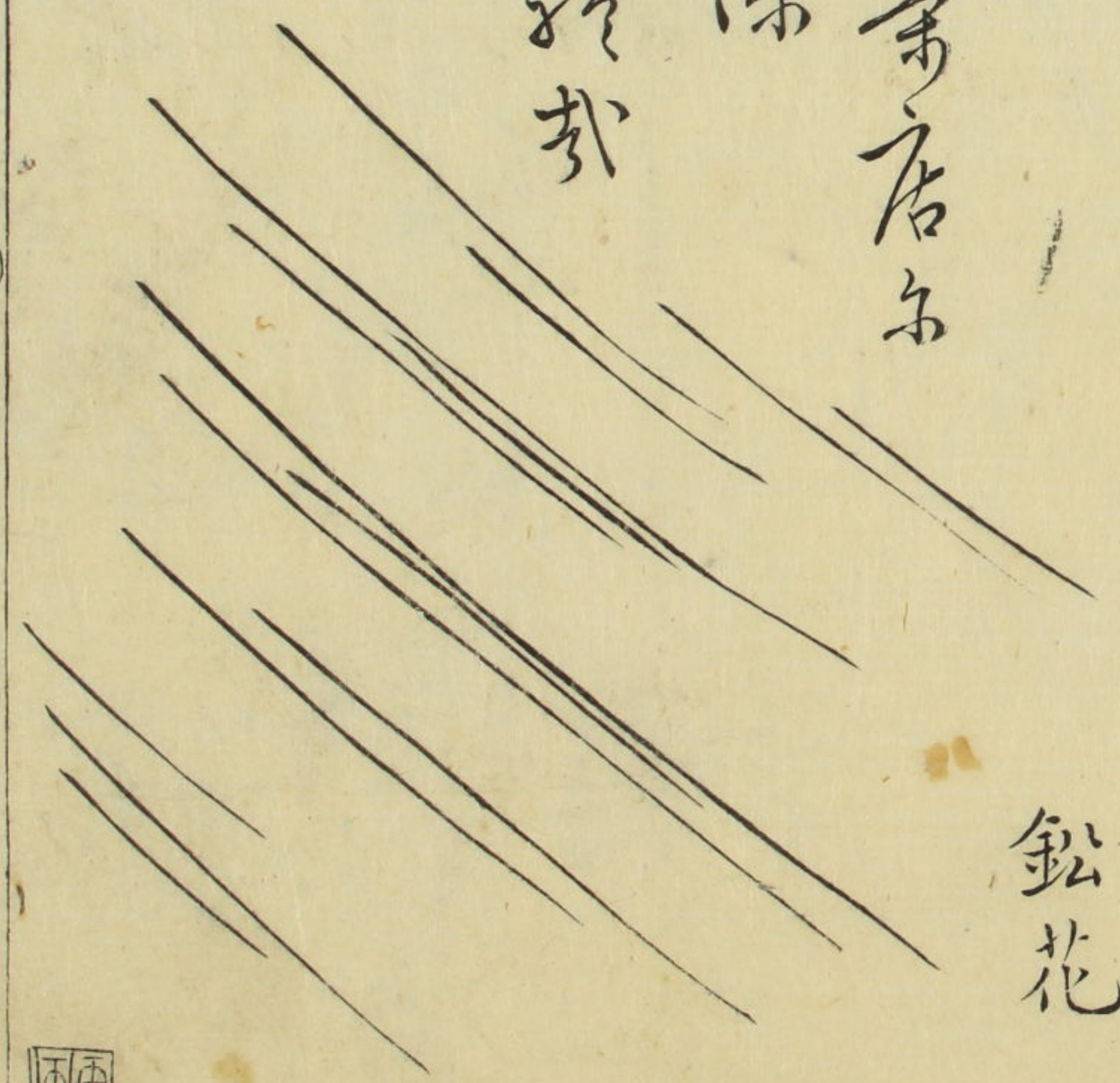
嬌大

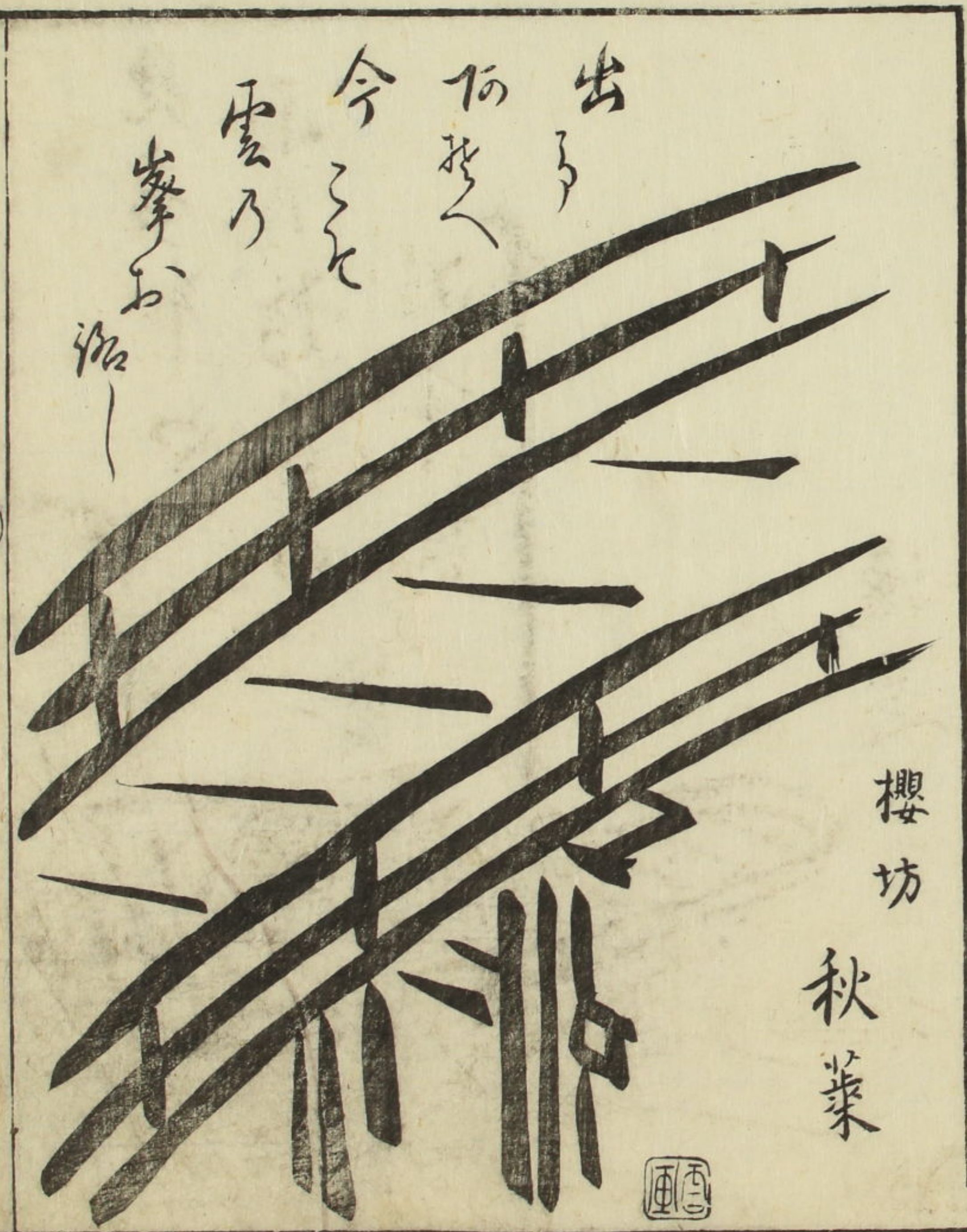
柔唇尔

剔深

一之端哉

鉉花





▲口六十



脚子尔

安堂

夜摩ハ

茶卦

洛

風雲軒

風狀

▲口六十一

短衣如

聲哉治寸波多

如子



洛音車

五始

四季

治

机墨菴

宋屋

春のゆきを匂うるはるはるを猫

やぬるはるはるの多夜夜あり五月暗

桂男や襦のきぬを丸裸

達磨の心や石ころ一輪磨り家

